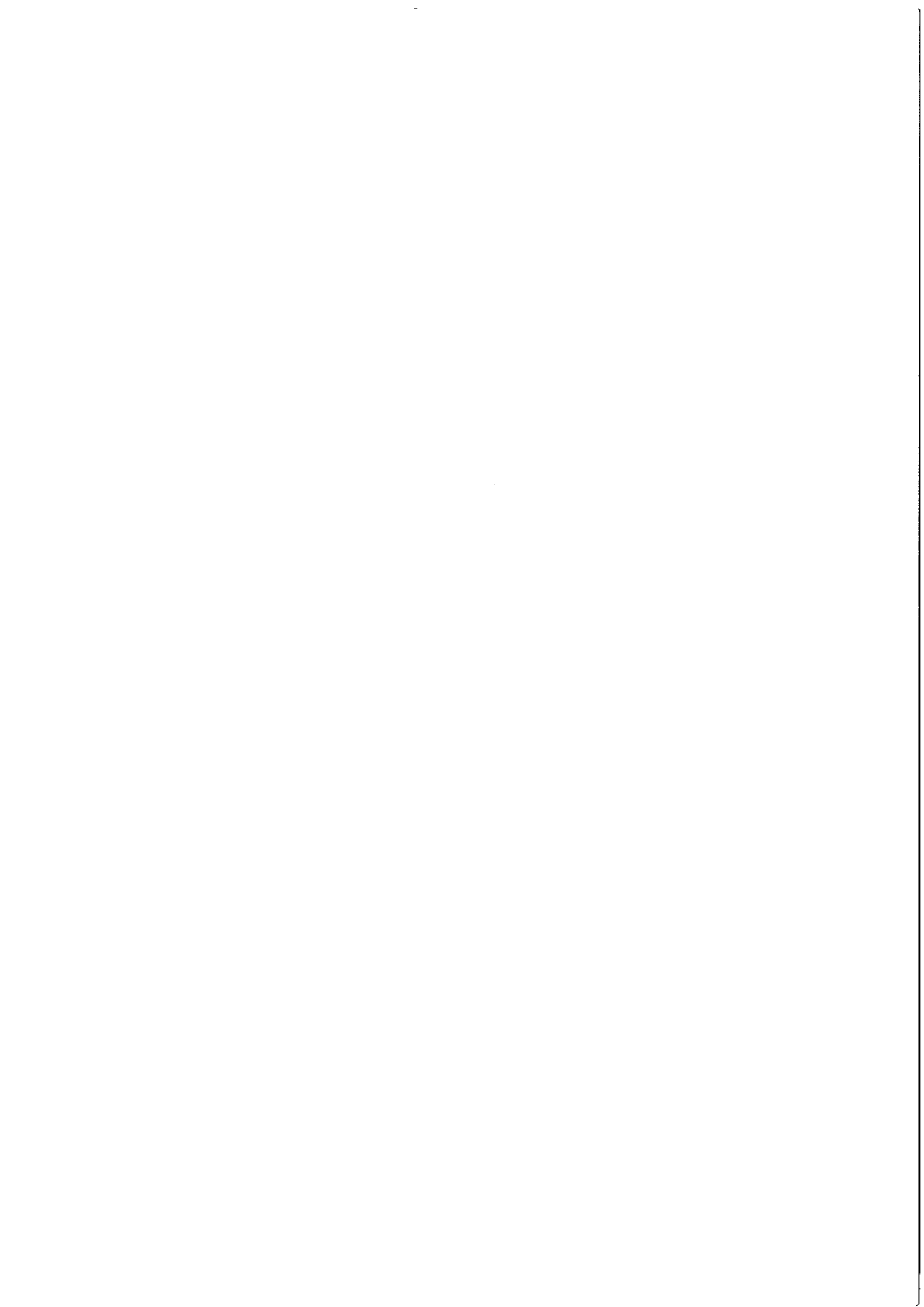


平成28年度
事業報告書
収支決算書

社会福祉法人しらとり会





監査報告書

平成 29 年 5 月 25 日

社会福祉法人しらとり会
理事長 正田 信夫 様

社会福祉法人しらとり会

監事 菅川 老彦 

監事 高橋 康裕 

私たち監事は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの平成 28 年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

①事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

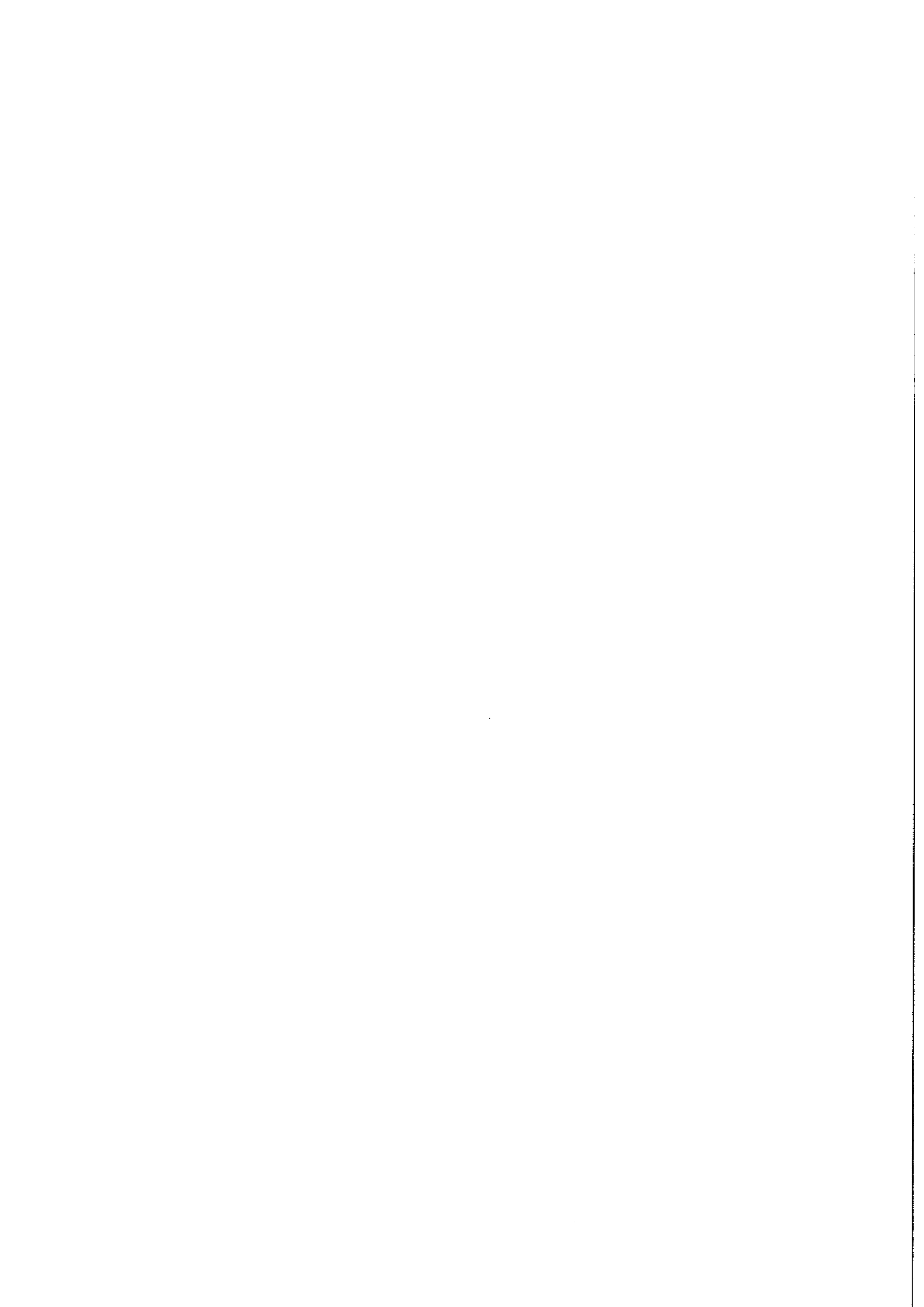
②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録の監査結果は、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

3 後発事象（重要な後発事象がある場合）

以上



平成 28 年度
社会福祉法人しらとり会 事業報告

1. 地域生活支援センターまほろば	
(1) 相談支援事業	・・・ 2
(1) -1 はあとふる	(2)
(1) -2 まほろば	(7)
(2) 地域活動支援センター I 型事業	・・・ 11
(3) 住宅入居等支援事業	・・・ 26
2. ワークセンターなかよし	
(1) 就労継続支援 B 型事業	・・・ 27
(2) 自立訓練（生活訓練）事業	・・・ 35
3. その他の活動等	・・・ 38
4. 苦情解決等	・・・ 38
5. 防災・安全	・・・ 40

1. 地域生活支援センターまほろば

(1) 相談支援事業

(1) - 1 委託相談支援事業 (はあとふる)

■全体の概要

『一般相談』では、平成 27 年度に比べて相談者の実人員は、障害児者共にほぼ同数であった。サービスを利用されている方が、市内 18 箇所の相談支援事業所の相談に移行し、はあとふるで継続的に支援する方が減少した。一方で、困難な課題を複数抱えている方の相談や、診断はないが障害があると思われる方、本人に支援ニーズはないが家族が困られている方、福祉サービスを利用されていない方、これから利用のニーズがある方の相談が中心になっており、はあとふるの基幹相談支援センターの役割として、この傾向は今後も続くと考えられる。

相談内容の傾向として

障害種別の中では、知的障害 199 人、精神障害 147 人と相談件数が多かった。

また、支援内容では『不安の解消・情緒安定に関する支援』が 266 件の増加、『障害や病状の理解に関する支援』が 142 件増加、『健康・医療に関する支援』が 355 件の増加、『家計・経済に関する支援』が 148 件増加した。

引きこもりやサービスに繋がらない方の相談件数の増加とあいまって、地域で生活する中で不安を抱えている方を支える相談ニーズの高まりと捉えている。

(総合相談機能)

困難事例や新規事例については、毎週月曜日のケースミーティングで支援内容を協議し、支援の方向性を確認している。複数の障害者を抱える困難家庭の支援については、複数担当制をとりコーディネーター同士で報告・連絡・相談しながら相談支援を進めた。

また、発達支援コーディネーターや就労支援コーディネーターの常駐によって早い段階から連携を図ることができ、障害特性に配慮した支援計画作成や就労に特化した支援に繋がやすくなった。

近年、高齢者で障害があると思われる方や、保護者が高齢になられたことによって生じる課題についての相談が増加しており、相談や支援ニーズが多岐にわたっていることから、横断的に関係機関と連携を図りながら進める機会が増加した。

(療育相談機能)

発達専門相談の新規ケースの 88%が児童の相談となっており、多機能の子育て支援機関として紹介を受け、保護者の子どもの発達に対する正しい理解と不安の軽減を図りながら、専門機関や保育所・幼稚園・学校と連携しながら相談支援に努めた。

また保育所や学校への巡回相談や療育教室への支援を通して、個別相談につながるケースや、「はあとふる」を紹介されることも増えており、発達の遅れや偏りによる育てにくさや負担感に対しての早期の相談支援が図れるようになった。

重点項目のふりかえり

①発達支援体制の強化

発達障害理解に関する各方面からの取り組みや啓発により、当事者、支援者の双方に早期からの配慮や支援の必要性が理解されるようになり、相談支援機関につながるケースが増えた。

しかしその一方で、児童期支援に必要な療育機関の受け入れには限りがあり、待機児童は増加し続けており慢性的に資源不足の状態が続いている。

そのことを踏まえて、平成 27 年度に引き続き、基幹型子育て支援センターと協力して保育関係者向けの研修会を実施し、幼稚園を含む保育機関において、特性をアセスメントして特性に基づいた個別支援を人的・物理的環境の許される範囲で提供いただけるところが増えてきた。

②相談支援体制の強化

平成27年度に引き続き、特定指定相談支援事業所や障害児相談支援事業所との連携強化に努めた。計画相談100%達成後は計画の質が問われており、地域の相談支援専門員のスキルアップ、人材育成のための連携会議や研修企画などを重点において行った。

また、相談や支援ニーズが多岐にわたっていることから、横断的に関係機関と連携を図っていくことや、基幹として求められるスーパーバイズやアウトリーチを機能させることで東広島市全体の相談支援機能の底上げを図っていく必要があった。

③地域移行・地域定着の取り組み

障害福祉計画で数値目標を設定されているが、これまで実際にはあまり進んでない実情がある。平成28年度は入所施設からの地域移行に関しては課題別会議を設置し、広島県内の入所施設に地域移行のニーズ調査のためのアンケート調査を行った。今後、アンケート調査の結果から地域移行のニーズのある方に関して個別に関わり地域移行が実現できるように支援する。

精神科病院からの地域移行については、目標数値設定や、東広島市内の入院病床のある精神科病院に地域移行ポスターを貼っていただけよう準備を進めた。今後は長期入院している方へ情報提供の周知、地域移行の相談が入った時の対応について具体的な方法を考えていく。

④虐待の防止と権利擁護の推進

平成24年10月の障害者虐待防止法の施行により障害者虐待防止センターが設置され、その窓口としての役割を担っている。障害のある方や家族、支援者等からの虐待や権利擁護の相談に対応するとともに、障害者虐待防止の普及、啓発の研修企画、実施を行った。

虐待通報・認定件数については、いずれも、平成27年度と比較して僅かながら増加が見られた。虐待防止法の施行から年月が経過し、施行当時よりも「疑わしきは通報」の意識が薄れている可能性があり、再度、虐待防止法の意義や通報について周知をする取り組みを行なう必要があると考えた。

虐待防止法の真の目的である虐待の防止、虐待の芽を早期に摘むためには、権利意識の底上げが必要である。

自立支援協議会においては、権利擁護部会ならびに障害者支援施設連絡会（SKH 東広島）において、市内の障害者支援施設の職員を対象とした中堅職員研修、および、初任者研修を実施した。平成28年度においては、それぞれ「合理的配慮」「意思決定支援」をテーマに研修を開催し、計50名ほど参加があった。今後も啓発研修に取り組んでいきたいと考える。

⑤自立支援協議会の運営

市内の施設、事業所、関係機関、行政機関、障害のある人や家族など多くの方の参加を募り地域課題を共有し、官民協働で地域課題解決に向けた取り組みを行うための自立支援協議会を運営した。

障害者計画・障害福祉計画の実現も念頭におきながら、これまで解決できていない課題解決にむけて新たに課題別会議を設置して継続的に協議を行った。

- ・部会の運営（自立支援協議会定例報告会で各部会から報告）
 - 精神保健福祉部会
 - 聴覚障害者の課題を検討する部会
 - 就労部会
 - 権利擁護部会
 - ヘルパー支援部会
 - 療育部会
 - 医療連携部会
 - 相談支援事業所連絡会（NETZ 東広島）
 - 障害者支援施設連絡会（SKH 東広島）
 - 収入アップネットワーク（就労継続支援事業所意見交換会）
- ・プロジェクトの運営（自立支援協議会定例報告会で各部会から報告）
 - 障害のある児童、生徒の通学支援に関するプロジェクト
- ・課題別会議（自立支援協議会定例報告会で各部会から報告）
 - 災害時の体制整備
 - 障害のある子どもの長期休暇の過ごし方

○地域移行

○療育待機児童について

(※障害者総合支援センター分の相談件数や内容等については5・6ページのとおり)

相談支援事業実績報告書 (一般相談) 平成28年度の実績

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者 うち0内新規	393 (140)	64	3	104	143	18	3	58
障害児 うち0内新規	191 (37)	12	4	95	4	35	0	41
計 人	584 (177)	76	7	199	147	53	3	99

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話等相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	754	522	135	3029	407	264	1257	6368

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	1028	236	802	1289	251	753	330	960	871

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
件数	43	38	1246	7847

相談支援事業実績報告書 (発達専門相談) 平成28年度の実績

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者 うち0内新規	135 (50)	0	0	14	15	43	0	63
障害児 うち0内新規	660 (367)	2	0	22	10	156	0	470
計 人	795 (417)	2	0	36	25	199	0	533

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話等相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	879	729	87	1122	79	105	90	3091

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	469	432	164	141	1599	119	25	249	117

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
件数	15	3	364	3697

相談支援事業実績報告書（就労専門相談） 平成28年度の実績

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者 うち0内新規	61 (20)	7	0	7	19	14	2	12
障害児 うち0内新規	4 (2)	0	0	1	1	2	0	0
計 人	65 (22)	7	0	8	20	16	2	12

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話等相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	40	191	44	193	9	43	140	660

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	90	50	5	48	3	16	6	14	495

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
件数	0	20	45	792

相談支援事業実績報告書（虐待相談） 平成28年度の実績

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者 うち0内新規	21 (12)	1	0	14	2	0	0	4
障害児 うち0内新規	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1
計 人	22 (13)	1	0	14	2	0	0	5

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話等相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	8	0	0	17	62	1	5	93

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	21	0	5	0	2	57	13	11	7

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
件数	0	9	13	138

(1) - 2 まほろば

①指定相談支援事業

■計画相談支援（サービス等利用計画作成及びモニタリング）

【目的】

- ・利用者の「こんなことをしたい。こんな生活をおくりたい」をサポートできるよう、質の高い支援を目指します。

○サービス等利用計画の作成及びモニタリングの実施

【実施内容】

- ・福祉サービスの利用にあたり、サービス等利用計画の作成に向けての支援を行った。
- ・モニタリングを定期的実施し、訪問や面談等を行うなど利用者への生活支援を実施した。

表1 平成28年度のサービス等利用計画作成等の実施件数

月	サービス等利用計画作成 新規及び更新件数				モニタリング件数			
	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
4	20件	14件	13件	8件	27件	30件	22件	25件
5	12	6	10	6	22	29	22	26
6	5	7	13	5	30	22	20	23
7	4	9	8	9	22	23	21	22
8	6	8	6	6	26	22	21	20
9	10	10	8	8	29	21	24	20
10	11	9	8	8	23	30	19	20
11	9	7	6	3	19	24	22	28
12	5	5	6	6	28	21	21	27
1	9	8	2	6	27	22	23	27
2	9	6	8	7	24	22	24	27
3	5	9	7	8	35	26	34	24
合計	105件	98件	95件	80件	312件	270件	273件	289件

【評価と課題】

- ・平成26年度・平成27年度と横ばいの件数だったが、平成28年度は新規等とモニタリングともに件数が増えている。
- ・相談支援専門員、一人あたりの件数が増えつつあるため、一人ひとりの相談者に対しての相談支援の質が落ちないように、関わりを行っていく必要がある。

○基本相談の実施

表2 平成28年度の指定特定相談支援に係る基本相談の実施件数

月	面接	訪問	会議	電話相談
4	3件	6件	1件	8件
5	6	2	0	0
6	2	5	1	13
7	7	0	0	12
8	2	7	2	13
9	4	5	1	0
10	5	7	0	13
11	3	5	0	3
12	5	3	1	10
1	8	4	1	18
2	3	2	4	12
3	6	5	1	13
合計	54件	51件	12件	115件

【実施内容】

- ・福祉サービスにつながらない障害のある方に対して、訪問や面談等により支援を行った。
- ・福祉サービス利用終了後も、必要に応じて、訪問や面談等で支援を行った。

【評価と課題】

- ・福祉サービスにつながらない方に対して、どう緩やかな支援を行っていくかが課題である。

○自立支援協議会や団体等への会議等の出席

【実施内容】

表3 東広島市自立支援協議会や県内の団体等の会議への参加状況

会議等名称		回数
東広島市 自立支援 協議会	相談事業連絡会議 (ネッツ東広島)	12回
	精神保健福祉部会	12回
広島県精神障害者支援事業所連絡会 相談支援事業所連絡会議		6回
精神保健福祉の向上と地域生活支援に 関する検討会		6回

【評価と課題】

- ・東広島市自立支援協議会や県内の団体等の会議へ参加し、情報共有等を行った。
- ・平成29年度も引き続き、会議等へ参加し情報の共有等を行っていく。

■地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）

【目的】

- ・病院等の関係機関と連携して、「退院して、このような生活がおくりたい」という思いを実現するために支援を行います。

【実施内容】

（地域移行支援）

- ・長期に入院している方等に対して、入院中から病院と連携を行い、アパート探し等退院に向けた支援を行った。

表4 平成28年度の地域移行支援の実施状況

月	地域移行支援	
	利用人数	支援回数
4	0人	0回
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	0	0
10	0	0
11	1	2
12	1	2
1	1	1
2	1	2
3	1	2

*平成28年度 地域移行支援 実人数 2人

表5 平成28年度の地域移行支援利用者への支援内容等
○Aさん

月	11月	12月	1月
回数	2回	2回	1回
支援内容	・一人暮らしをしている当事者に話を聞きに行く。 (同行支援)	・一人暮らしをしている当事者に話を聞きに行く。 (同行支援)	・ケア会議の実施。 *退院に至る。

○Bさん

月	2月	3月
回数	2回	2回
支援内容	・アパート探し (同行支援) ・面談	・アパート探し (同行支援)

*3月末時点で支援を継続中。

【評価と課題】

(地域移行支援事業)

- ・平成28年度は2人の方へ地域移行支援を行い、1人が退院に結びついた。(あと1人は支援を継続中)
- ・県内での地域移行支援の利用が広がっておらず、他市の相談支援事業所等と情報交換等を行い地域移行支援の普及啓発を行っていくことが課題である。

(地域定着支援)

【目的】

- ・関係機関と連携し、「安心して地域で暮らし続けたい」という思いを実現するために支援を行います。

【実施内容】

- ・居宅において単身等で生活する人に常時の連絡体制を確保し、緊急時等に相談や必要な支援を行った。

表6 平成28年度の地域定着支援の実施状況

月	支援人数	緊急時支援	詳細
4	8人	0件	
5	7	0	Aさん：一般就労により終了。
6	7	2	Bさん：緊急時支援で通院同行。 Cさん：不安の訴えが強くあり、緊急時支援で訪問。
7	6	0	Cさん：入院により、地域定着支援を中断。
8	6	0	
9	6	0	
10	5	0	Dさん：地域生活の安定により終了。
11	6	0	Eさん：同居家族が亡くなり、一人暮らしになったため、地域定着支援を開始。
12	6	0	
1	7	0	Cさん：退院により地域定着支援を再開。
2	7	0	
3	7	2	Bさん：緊急時支援で通院同行。 Bさん：入院の準備等のため、緊急時支援を行う。

*平成28年度 地域定着支援 実人数 8人

表7 月別の夜間及び祝日・日曜日の電話の利用件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	57件	64	53	42	34	31	57	64	53	42	34	31	522件

【評価と課題】

- ・平成28年度は、年間を通じて8人の利用があった。新規利用（1件）としては、同居家族が亡くなり一人暮らしとなった方が利用を始めた。
- ・利用者へは、モニタリングやケア会議等で生活状況を確認していくとともに、生活が安定した方については、ケア会議を開催し、地域定着支援の終了を目指していく。
- ・今後も長期入院からの退院者や触法の障害者など、濃厚な支援を必要とする方へは、地域定着支援を活用していく。
- ・地域定着支援利用者へは、クライシスプランを作成し、平穏時から緊急時までの本人・支援者の役割を決めておいたことで、本人の安心につながった。
- ・これまで親・兄弟等の支えがあった方たちが、親等の高齢化により、一人暮らしになり、手厚い支援が必要になるケースが想定され、地域定着支援のニーズは増えていくと思われる。

(2) 地域活動支援センター I 型事業

1) 利用者の状況

■利用者の状況

表 8 平成 28 年度末 (平成 29 年 3 月末現在) における利用の状況

平成 28 年度末 登録者数 148 人 (平成 27 年度末 登録者数 146 人)				年齢別構成			
				年代	平成 28 年度末	平成 27 年度末	増減
性別構成				10 歳代	1 人	1 人	± 0
				20 歳代	5	5	± 0
				30 歳代	36	41	- 5
				40 歳代	63	58	+ 5
性別	平成 28 年度末	平成 27 年度末	増減	50 歳代	24	24	± 0
男性	94 人	92 人	+ 2	60 歳代	16	15	+ 1
女性	54	54	± 0	70 歳代	3	2	+ 1
合計	148 人	146 人	+ 2	合計	148 人	146 人	+ 2

2) 具体的な活動の状況

①憩いの場 (フロア等) の提供

【目的】

- ・安心して気軽に集まれるサロン (交流) の場を提供する。
- ・利用者同士が互いに支え合い、お互いの話を聞くことで自分自身の障害の受容を図っていくとともに、自分自身の体験からアドバイスし合い、フロアがピアサポートの場となるよう支援を行う。

【実施内容】

- ・利用者同士がお互いの話を聞き、自分自身の考えや思いを伝え、アドバイスをし合える場となるように支援した。
- ・相談支援専門員等とも連携し、個別の利用目的を把握しながら、個々に合わせた支援を行った。

【評価と課題】

- ・年々利用者同士が互いに支え合い、フロア全体がピアサポートの場となってきたと感じられる。これは、利用者自身の力が付いてきている結果だと言える。また、利用者同士のネットワークも増えており、フロア以外での交流も増えてきている。
- ・一方でフロア以外での交流が増えたことにより、トラブル等の相談も増えたため、職員間で連携・情報交換を密に行い、また、相談支援専門員とも連携しながら支援していく必要がある。

表 9 平成 28 年度の 2 階フロアの利用状況

月	のべ利用者人数				開所日数	1 日平均の 利用者数	フロア利用者 実人数
	登録者		登録外 体験利用	合計			
	市内	市外					
4	541 人	17 人	34 人	592 人	26 日	23 人	80 人
5	574	19	20	613	26	24	71
6	545	18	10	573	26	22	72
7	511	18	20	549	26	21	68
8	562	17	24	603	25	24	66
9	544	16	20	580	26	22	67
10	554	16	29	599	26	23	72
11	567	15	14	596	26	23	68

12	522	9	8	539	24	22	78
1	524	16	21	561	24	23	74
2	511	19	24	554	24	23	78
3	584	21	23	628	26	24	73
合計	6,539人	201人	247人	6,987人	305日	274人	—
平均	545人	17人	21人	582人	25日	23人	72人

②電話相談及び面接・訪問等

【目的】

・フロアの利用が難しい方やそのご家族で、困りごと・相談等がある場合には、必要に応じて電話による相談及び面接・訪問等を行い、解決の糸口が見つかるように支援を行う。

【実施内容】

- ・まほろばの開館日に、心配ごとや悩みごとを聞き、解決の糸口が見つかるよう支援した。
- ・1回の利用時間は最大15分とした。
- ・必要に応じて、面接及び訪問による支援を行った。
- ・相談支援専門員とも連携し、サービス等利用計画に沿って相談支援を行った。

表10 平成28年度の月別の利用者からの電話相談の状況（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
の件数	634	712	637	551	468	458	557	507	490	431	475	502
1日平均	24	27	25	21	19	18	21	20	20	18	20	19
	合計		6,422件		平均		535件/月					

【評価と課題】

- ・電話相談を通して、本人が自分の考えをまとめることができたり、自分で決断することができるようになってきている点は、電話相談を受け続けている効果と考えられる。
- ・目的が不明確な内容の電話については、平成29年度も引き続き職員間及び相談支援専門員と連携を取りながら、利用の目的を明確化する必要がある。
- ・特定相談で支援を終了した方についても、引き続き地域活動支援センターI型事業での電話相談や訪問によりフォローする体制を作り、タイムリーに支援できるよう体制を整えておく必要がある。

表11 平成28年度の月別の面接及び訪問の状況（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面接	11	6	10	9	11	5	2	7	3	2	7	7	80
訪問	2	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	7
合計	13	7	10	11	13	5	2	7	3	2	7	7	87

③ピアサポート活動の支援

【目的】

・精神障害当事者が、ご自身が経験した病気や障害の体験を語ることにより、悩みを抱えたり、困っている人に対して同じ立場で支えることができるように支援する。

■フレンド・グループミーティング

【実施内容】

- ・原則、毎月第1水曜日に、しらとり会4階で実施した。(13:00~14:00)

表12 平成28年度の「フレンド・グループミーティング」の実施状況

回	実施月日		実施内容	参加者数(人)	
	月	日			
1	4	6	・平成27年度「フレンド・グループ」の総括 ・院内茶話会チームより報告 ・実習生への施設概要説明チームより報告	8	
2	5	11	・DVD鑑賞	8	
3	6	1	・DVD鑑賞	6	
4	7	6	・演習「相続について」 ・院内茶話会チームより報告	6	
5	8	3	・演習「3分間スピーチ(事前勉強)」 ・院内茶話会チームより報告 ・実習生への施設概要説明チームより報告	7	
6	9	7	・演習「3分間スピーチ(実施)」 ・実習生への施設概要説明チームより報告	4	
7	10	5	・演習「社会的なマナーの勉強①」 ・院内茶話会チームより報告 ・実習生への施設概要説明チームより報告	5	
8	11	2	・支援員さんから見た障がい者	8	
9	12	7	・演習「社会的なマナーの勉強②」 ・院内茶話会チームより報告	9	
10	1	11	・「フレンド・グループミーティングの振り返り(個人)」 ・院内茶話会チームより報告 ・実習生への施設概要説明チームより報告	7	
11	2	1	・「フレンド・グループミーティングの振り返り(全体)」 ・院内茶話会チームより報告	8	
12	3	1	・「平成29年度の年間計画(案)について」 ・院内茶話会チームより報告 ・実習生への施設概要説明チームより報告	9	
実施回数			12回	合計	85人

【評価と課題】

(*利用者自身による評価と課題)

- ・ミーティング全体が一つにまとまってきた。
- ・司会進行がスムーズに流れるようにできるようになってきた。
- ・冠婚葬祭等の一般常識が学べてよかった。
- ・改めてピアサポーターの存在意義とは何か?を考える機会となった。
- ・より身近で実践的な演習を多く取り入れたことは良かったと思う。
- ・年間を通しての体調管理やスケジュール管理を個々に行っていく必要がある。
- ・この1年を振り返り、積極的に何かをすることができなかった。

■院内茶話会「たんぽぽ」チーム

【実施内容】

- ・年3回、地域生活支援センター365（竹原市）、地域活動支援センターときわと共催し、院内茶話会の企画・運営を行った。

表13 平成28年度の院内茶話会の実施状況

回	開催日		実施会場	参加者数*	
	月	日			
1	10	7	竹原病院	33人	
2	12	15	賀茂精神医療センター	34	
3	3	21	宗近病院	46	
実施回数			3回	合計	113人

(*参加者には、運営スタッフも含む)

【評価と課題】

(*利用者自身による評価と課題)

- ・茶話会当初に比べて入院患者と地域の患者の垣根がなくなった。
- ・サブサブ司会を設けなくても意見が活発に出るようになってきた。
- ・入院患者だけでなく、地域からの参加者の地域定着に貢献できれば良いと思う。
- ・入院患者の地域移行・意欲にどれだけ効果があったか分からない。
- ・若い患者が参加しやすいような雰囲気作りを考えていかなければいけない。
- ・経営とは総合学問である。スタッフのスキーマだけで運営しているふしがある。40～50年ぐらゐの研究で人間が分かるほど人間は簡単でない。福祉職が一番人間のことが分かっている。

■施設概要説明チーム

【実施内容】

- ・学生実習および、見学者に対して施設概要説明を行った。

表14 平成28年度の実習生および見学者への施設概要説明の実施状況

回	開催日		実施対象先	参加者数	
	月	日			
1	5	10	県立広島大学	1人	
2	8	30	広島医療保健専門学校	1	
3	11	2	広島福祉専門学校	1	
4	3	1	広島国際大学	1	
実施回数			4回	合計	4人

【評価と課題】

(*利用者自身による評価と課題)

- ・三者三様の説明ができるようになってきた。
- ・回数を重ねるたびに上手に話せるようになってきた。
- ・実習生に説明することが人前で話すいい機会となった。
- ・チームの人数が増えていないので増やしたい。
- ・毎回話す内容が一緒なので、今の自分の状態（体調や利用状況）に合わせて話ができるよう工夫していきたい。
- ・声が小さいのでなるべく大きな声で話をするよう気を付けていきたい。

■その他

【実施内容】

<体験発表>

- ・平成28年度は、未実施。

<通信での活動紹介>

- ・ピアサポーターとしての活動を毎月の通信で紹介した。

【評価と課題】

(*利用者自身による評価と課題)

- ・(特別に変わった人だけがなる病気ではないという点において)当事者が何をどう感じているか地域の人に伝える事は大切だと思う。
- ・体験発表の場が少ない。
- ・職員の営業力不足・当事者のプレゼン力不足でオファーが来ないのが「体験発表」である。当事者はできなくて当たり前という頭で職員の営業力・対人関係力・折衝力を強化する以外、いずれこの項目は事業項目から外し他の道を探すのがしらとり会の取るべき道の最善策である。
- ・「通信での活動紹介」はしらとり会外部への広報に大いに貢献した。
- ・記事を載せることによってメンバーが増えた。
- ・日頃の活動状況・意見を発表できる場となり良かった。
- ・1人で書くことが平成28年度はなかったので、平成29年度は書くようにしたい。
- ・良くも悪くも感想などがあれば聞いてみたい。

④お元気ですかコール

【目的】

- ・登録はしていても1年間利用されていない利用者や家族の方々に電話をかけ、現在の生活状況等を聞き、生活の中で問題を抱え込まないよう支援する。

【実施内容】

- ・平成28年度は未実施。

【評価と課題】

- ・これまでゆるやかではあるが「お元気ですかコール」を継続してきたことによって、問題等があった時にはご本人から連絡が入るようになったことは評価できる。相談支援専門員や他の関係機関と連携を図ってきたことにより、定期的に利用者の現在の生活状況等を確認することができるようになってきたため、平成28年度をもって一旦終了とする。

⑤レクリエーション

【目的】

- ・レクリエーション委員が中心となって企画・運営することにより、利用者同士が互いにフォローし合える場を提供する。
- ・活動を通して、他者とのコミュニケーションを図る機会とする。
- ・ボランティアの参加を募り、地域との繋がりを深める機会とする。
- ・開催日時等を、通信や電話等で周知することにより、日頃来所が難しい方でも緩やかではあるが繋がりを持てるよう支援する。

【実施内容】

- ・平成28年度は、4回実施した。

【評価と課題】

- ・レクリエーションを実施することで、普段あまり交流のない利用者同士が交流し、コミュニケーションを深める場の提供ができた。
- ・利用者がレクリエーション委員を担い企画・運営・進行することで、今まで人前で話すことが苦手だった利用者が少しずつ人前で話すことができるようになった。また、企画毎に振り返りを行ったことで、利用者同士で改善策を考え、次回それを踏まえて企画・運営することができたこ

とは評価できる。

・利用者の年齢層が上がってきているため、平成 29 年度はなるべく大勢の利用者が無理なく参加できるように、企画の内容を検討していく必要がある。

表 15 平成 28 年度のレクリエーションの実施状況

回	実施月日		実 施 内 容	実施会場等	参加者数 (人)		
	月	日			利用者	新着	合計
1	4	9	花見	鏡山公園	14	1	15
2	8	1	海水浴・バーベキュー	マリンふれあいの里 (大浦崎公園ビーチ)	5	2	7
3	12	10	忘年会	まねきねこ (カラオケ)	11	0	11
4	1	21	新年会	しらとり会 4階 食堂	8	0	8
実施回数			4回	合 計	38	3	41

(*参加利用者平均 10人)

⑥利用者企画 (同好会)

【目 的】

・利用者が主体となり企画・運営することにより、利用者の意欲を高めるとともに、利用者同士のつながりを深める機会とする。

【実施内容】

・平成 28 年度は、未実施。

【評価と課題】

・利用者より相談があれば対応できるよう体制を整えておく。

⑦しらとり会ミーティング

【目 的】

・しらとり会を利用する一人ひとりが意見を出し合い、しらとり会をより利用しやすくすることを目的として開催。

【実施内容】

- ・毎月 1 回 4 階食堂で、午後 1 時より開催した。(日程はその都度調整)
- ・議題は、意見箱に入っていた意見と、利用者・職員から出た提案とした。
- ・しらとり会ミーティングは、参加者誰もが自分の思いを発言できる場であり、その思いを承認できる場とした。
- ・利用者と担当職員で、しらとり会ミーティングを運営するチームを作った。
- ・運営チームは、当日の進行など事前に打ち合わせを行い、初めて司会や書記に参加する利用者をサポートする役割や、ミーティングの議事録をまとめる役割を担った。
- ・開催にあたっては、あらかじめ通信でお知らせし参加を呼びかけた。
- ・開催後は、利用者全員と情報を共有できるように、話し合いの内容を通信でお知らせした。

【評価と課題】

・利用者からの発案により、利用者、担当職員で反省会を行った。

(*利用者より)

- ・話しやすい雰囲気を作っていきたい。
- ・しらとり会ミーティングの司会をするメンバーが増えた。
- ・書記をするのが大変。しらとり会ミーティングチームに若いメンバーに入ってほしい。
- ・他の事業所が、司会や書記をどのようにしているのか、知って、参考にしたい。
- ・しらとり会の利用者心得について利用者から意見が出たので、また見直しを行っていききたい。
- ・何度か司会をしてみて、司会者がスムーズに進行することが必要だと思った。重要なことはきちん

と話をするという、匙加減が大事。

表 16 平成 28 年度のしらとり会ミーティングの実施状況

実施月日		実施内容（議題等）	参加者数（人）		
月	日		利用者	職員他	合計
4	11	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・社会を明るくする運動について ・掃除用具などの備品について ・利用者心得の変更について ・落としものについて ・通信について ・ゴミの分別について ・レクリエーション委員より（写真販売について） 	16	7	23
5	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・熊本地震募金の呼びかけ ・落としものについて ・スプーンについて ・男子トイレの汚れについて ・傘が無くなったことについて 	17	7	24
6	10	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・評議員より報告 ・利用者心得について ・パソコン講習のお知らせ ・2階のお茶について ・落としものの報告 ・レクリエーション委員より（海水浴のお知らせ） ・ソフトボール大会のお知らせ 	17	9	26
7	15	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取扱いについて ・共同募金のお知らせ ・缶の分別について ・レクリエーション委員より（海水浴のお知らせ） ・トイレの貼り紙について ・トイレトペーパーの補充について ・落としもののお知らせ ・交流会実行委員の募集 ・夏祭りのアルバイト・ボランティアの募集 	17	8	25
8	16	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・テーブル利用のマナーについて ・相談室の防音について ・事務所のドアの開閉について ・アンケートのお願い ・落としものについて ・携帯電話利用時のマナーについて ・タブレット講習会について 	18	7	25
9	9	<ul style="list-style-type: none"> ・フリートークをしてはどうか ・年賀状の住所録について ・レクリエーション委員より（海水浴の人数が少なかったことについて） ・落としものについて 	22	10	32

		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所のドアの開閉について ・避難訓練について ・トイレトペーパーについて ・トイレの貼り紙について ・外に置いてある不要物について 			
10	12	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶について ・インフルエンザの予防接種について ・年賀状の住所録について ・2階の机について ・PSW 実習 ・交流会について ・落としものについて ・避難訓練と AED 講習について ・職業セミナーについて 	17	6	23
11	9	<ul style="list-style-type: none"> ・2階のテレビについて ・レクリエーション委員について（忘年会について） ・落としものについて ・インフルエンザの予防接種について ・インフルエンザについて ・年賀状の住所録について ・駐輪場について 	19	7	26
12	9	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・口喧嘩しないよう仲良くしましょう ・新聞を読まないときのマナー ・レク委員より ・意見箱の用紙についてのお願い ・落としものの報告 ・咳エチケットについて ・マツダ労働組合からのプレゼント ・大掃除について ・喫煙所使用時のマナーについて 	20	6	26
1	16	<ul style="list-style-type: none"> ・しらとり会ミーティングでの発言時は手を上げる ・相談室の防音について ・レクリエーション委員より（新年会について） ・落としものについて 	16	7	23
2	13	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・公用車は丁寧に扱ってほしい ・評議員会について ・落としものについて ・3階の相談室の防音対策について ・避難訓練の実施について ・1階の掲示板について ・食後に机を拭いてほしい 	21	8	29
		<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱より ・食後に机を拭いてほしい ・意見箱の用紙を小さくしてほしい ・公用車は丁寧に扱ってほしい 			

3	10	<ul style="list-style-type: none"> ・3階のロッカーについて ・1階の掲示板について ・3階相談室の防音について ・赤い羽根共同募金の報告 ・差別解消法のアンケートについて ・避難訓練について ・なかよしのパンフレットについて ・平成29年度も事業計画案について ・意見箱の開封について ・レクリエーション委員より（お花見について） 	19	7	25
実施回数	12回	合計	219	89	308

(*職員等には、職員のほか実習生を含む)

⑧「おりょうりクラブ」

【目的】

- ・1人暮らしになったとき、料理ができるよう練習したい。

【実施内容】

- ・毎月1回、実施。
- ・担当制とし、メニュー決め、企画書の作成、集金、活動記録の記入などを、その月ごとの担当の利用者が中心となってい、買い物、調理、片付けは、皆で行った。

【評価と課題】

- ・利用者からの発案により、利用者、ボランティア、担当職員で反省会を行った。

(*利用者より)

- ・あまり時間をかけず簡単に作れる料理はとても良かった。今後、惣菜のアレンジなどをしていても楽しいかも。
- ・ミキサーを使ってみたい。カレーを1人でも作れるようになりたい。
- ・自分はおりょうりクラブのメンバーで唯一、一人暮らしをしている。チャーハンを作ったのが参考になった。今は1人のときはチャーハンや焼きそばを作っている。
- ・簡単などんぶりが作りたい。
- ・今も一生懸命やっているつもりだけど、他の人を見て、自分ももっとすることを増やさないと、と思った。
- ・味付けや、水加減についても自分で出来るようになりたい。

(*ボランティアより)

- ・今は作る量が多いので、今後は1人分の量を作ってみても良いかもしれませんね。

表 17 平成 28 年度のおりょうりクラブの実施状況

実施日		実施内容 (献立)	参加人数 (人)			参加費 (円)
			利用者	願者	合計	
4	18	ちらし寿司	6	3	9	220
5	30	豚丼	5	3	8	280
6	30	炊き込みご飯	5	3	8	180
7	21	夏野菜たっぷりカレーライス	4	3	7	300
8	29	そうめん	4	3	7	200
9	26	ドライカレー	4	2	6	290
10	24	尾道風お好み焼	5	2	7	270
11	30	炊き込みご飯	4	2	6	180
12	26	シチュー	5	10※	15	220

1	30	麻婆豆腐	4	1	5	200
2	23	肉じゃが	4	3	7	270
3	27	ちらし寿司	5	3	8	160
3	27	反省会	5	3	8	—
実施回数	13回	合計	60	41	101	—

※利用者より、「職員にも練習の成果をみてほしい」との希望があり、12月のみ職員・ボランティア等の欄には、担当職員以外の職員（8名）も含まれている。
（その8名は、食事のみ参加）

⑨ミニ昼食会

【目的】

- ・準備や食事を一緒にすることを通して、利用者同士や地域のボランティアとのつながりを深めるきっかけとして実施する。

【実施内容】

- ・毎月1回、土曜日に実施した。
- ・メニュー決定は、利用者の声を聞きながら、季節感を取り入れた献立を考えた。
- ・地域のボランティアに協力を依頼した。
- ・利用者の金銭負担を軽減するために、参加費は1人300円とした。

【評価と課題】

- ・利用者もすすんで準備や調理、食後の食器洗い等を行った。
- ・地域のボランティアの参加があったときは、利用者とのよい関係ができていた。
- ・この企画があったことで、長い間利用がなかった利用者のまほろばへの再利用につながった。
- ・参加者の約3割が一人暮らしの方のため、今後も楽しく会食ができるように工夫していく。
- ・地域のボランティアの参加が少なかったため、参加していただけるボランティアを募っていく。

表 18 平成 28 年度のミニ昼食会の実施状況

実施月日 月 日	実 施 内 容 (献立等)	参加者数 (人)			参加費 (円)	
		利用者	ボランティア	合計		
4 16	和風パスタ・野菜サラダ・抹茶プリン	8	0	8	300円	
5 14	炊き込みご飯・吸い物・にら玉、南瓜煮物・パンケーキ	4	0	4	300	
6 4	グリーンカレー・サラダ・プリン・チーズケーキ	8	1	9	300	
7 9	豆腐ハンバーグ・生姜焼き・卵スープ・フルーチェ	5	1	6	300	
8 27	冷麺・プリン	5	1	1	300	
9 24	炊き込みご飯・味噌汁・おかず・デザート	8	0	8	300	
10 29	中華丼・スープ・春巻き・卵焼き	6	1	7	300	
11 19	シチュー・マカロニサラダ・パン・ケーキ	5	0	5	300	
12 24	ハンバーグ・目玉焼き・野菜サラダ・シュークリーム	3	0	3	300	
1 14	鍋 (鶏塩・キムチ)	3	0	3	300	
2 4	ビーフシチュー・サラダ・マフィン	5	1	6	300	
3 18	トマトパスタ・サラダ・ワッフル	5	1	6	300	
実施回数	12回	合計	65	6	71	—

(*職員を除く)

⑩地域行事への参加 (バザー等)

【目的】

- ・しらとり会の活動について知ってもらう場として活用する。
- ・しらとり会の活動資金を得る場とする。

【実施内容】

・平成28年度は、5つの地域行事等へ参加した。

【評価と課題】

・今後も地域との交流を促進していくために、その他の行事等についても依頼があれば前向きに検討していく。

表19 平成28年度の地域行事等への参加状況

参加月日		参加行事	会 場	参加内容等	参加人数(人)	
月	日				利用者	職員
7	28	賀茂精神医療センター盆踊り大会	賀茂精神医療センター	ジュース販売	2	1
7	23	高美が丘夏祭り	高美が丘胡麻公園	たこ飯、ジュース販売	2	2
10	28	賀茂精神医療センター文化祭	賀茂精神医療センター	遊休品販売・パネル展示	1	1
11	5・6	東広島市健康福祉まつり	東広島市運動公園	パネル展示	—	1
11	13	福祉の職場求人説明会	東広島市総合福祉センター	東広島市施設連協力	—	1
参加回数		5回		合 計	5	6

⑩通信の企画・編集・発行

【目 的】

- ・利用者が安心して地域で生活していくために、精神保健福祉等に関する情報を発信し考えていくきっかけとする。
- ・関係機関や民生委員等に、しらとり会の活動を知ってもらうために発行する。
- ・利用者が、「利用者の通信『旅立ち』」※1に投稿し、読者の方に読んでもらうことで、自信に繋げ、得意なことを生かす機会となるよう支援していく。

(※1 平成27年6月より実施。利用者を対象に、俳句やイラスト等の自作を掲載したもの)

【実施内容】

(企画・編集について)

『SHIRATORI～Information～』

- ・1面の各月の内容については(表1)の通り。
- ・2面は、しらとり会ミーティングの報告、活動報告を掲載した。
- ・3面と4面は、まほろばの行事の詳細や、ピアサポーターミーティングの活動報告、なかよし・まほろばの月間の予定表等を掲載した。

『旅立ち』

- ・通信作成委員と一緒に投稿記事を確認し編集した。

(発行・配布について)

- ・毎月1回、1日(ただし、1月は4日)に発行した。
- ・毎月約450部を印刷し、利用者、関係者、市内の事業所等の他、県内の相談支援事業所、病院、行政等の関係機関や市役所の社会福祉課を通して市内の民生委員・児童委員へ配布した。
- ・また、今年度より、経費削減のため、発送方法を新たにメール(31件/月)でも実施した。
- ・通信の送付を希望しているボランティアの方には、利用者からの手紙を添えて送付した。

表20 平成28年度『SHIRATORI～Information～』(1面)の内容

発行月	内 容 等
4	受動喫煙防止について
5	診療報酬が改定されました
6	梅雨時の体調不良 ～ その原因と改善方法について ～
7	災害対策について(その1)
8	夏の体調管理について ～ 夏バテの原因と対策 ～

9	災害対策について（その2）
10	災害対策について（その3）
11	仲よし共同作業所から30年を迎えました
12	避難訓練&救急講習を受けて
1	新年のご挨拶・新年の抱負
2	しんどい時の気持ちの切り替え方
3	火災予防運動について
発行回数	12回

・第1面については、今年度は利用者から声があったテーマの掲載や、地震や災害が起こったことをきっかけにその対策の特集、季節に応じた対策等、その時々々の社会状況等を考慮し掲載することに努めた。

【評価と課題】

『SHIRATORI～Information～』

- ・民生委員の方や家族の方より「1面で社会情勢のことや福祉に関する情報を得られて、勉強になります」等の声があったため、一緒に考えていくきっかけとなっていると考える。
- ・複数の利用者より「しんどい時は私もあるので、対処法は参考になります」との声があったため、利用者にとって役立つ情報の一つとして発信できていると感じる。

『旅立ち』

- ・投稿者に、読者からの感想を伝えることでやりがいや自信に繋がっているため、平成29年度も実施していく。
- ・新たな投稿者を増やしていくことが課題である。

⑫学生実習

【目的】

- ・精神保健福祉士養成において、養成校（大学や専門学校等）と協力・連携し、人材育成に寄与する。
- ・学生が実習で利用者との関わりを通して、精神保健福祉の現状と利用者が抱える課題やニーズ、精神保健福祉士としての役割等について理解を深めるために実施する。
- ・利用者が当事者としての専門性を活かし、学生への指導や自らの体験を語ることで、自身を振り返る機会や、人前で話をする役割があることを実感できる機会とするために行う。

【実施内容】

- ・実習生の受け入れ状況については、以下の表のとおり。

表 21 平成 28 年度の実習受け入れの状況

対象資格等	実習依頼機関等		実習人数（人）
精神保健福祉士	県立広島大学		1
	広島国際大学		1
	広島医療保健専門学校		1
	広島福祉専門学校		1
依頼機関数	4か所	合計	4人

- ・より多くの利用者との関わりをもってもらうため、まほろば・なかよし両方の事業所の実習を組んだ。
- ・養成校（大学）の実習連絡協議会や実習報告会に参加した。
- ・実習プログラムに、利用者が実習生に自らの体験を語る機会を取り入れた。
- ・実習生に対して、しらとり会概要説明チーム（ピアサポーター活動の一環）の利用者と共に事業所の概要の説明を行った。概要説明をする前に、概要説明チームで話をする場を設け、説明する内容を統一した。

【評価と課題】

・養成校（大学）の実習連絡協議会や実習報告会に参加したことで、養成校と実習受け入れ側（医療機関や事業所等）の実習に向けての取り組み等の情報交換が行われ、今後についての確認ができた。より充実した実習となるために、事前訪問や当日の実習に加え、養成校と協力・連携し、今後も協議会や報告会に参加させていただく。

・実習生を受け入れる際、色々な実習生がおられるため、事前訪問までに養成校の先生から可能な範囲で実習生についての情報を教えていただくことが課題と感じる。

※利用者が実習生に施設概要説明を行った評価と課題については、「ピアサポート活動の支援施設概要説明チーム」参照。

⑬地域サロンへの支援

【目的】

・障害のある方が一市民として地域の方々と交流のできる場の充実を図る。

【実施内容】

・松賀サロンを通して、地域の方々との交流を図った。（4回開催）

【評価と課題】

・1名が、新たに松賀サロンにつながる事ができた。

・利用者への周知が課題である。

・食事会についてはこれまで無料であったが、主体的に参加していくためにも、今後は自己負担について検討していく。

表 22 平成 28 年度の「松賀サロン」での地域の方々との交流の状況

日 程	企画内容等	参加者数 (利用者)
平成 28 年 9 月 30 日	食事会	3
平成 28 年 12 月 8 日	忘年会	4
平成 29 年 1 月 22 日	とんど	5
平成 29 年 3 月 16 日	食事会	6
合計 4 回実施	合計	18 人

⑭ピアサロンこころへの支援

【目的】

・同じ障害や病気を持つ者同士が、互いに支え合える関係になっていくことを支援する。

【実施内容】

・第 1 土曜日の 10 時から 12 時、東広島市総合福祉センターにて開催した。

・精神科の疾患を持ちながら生活をしていくことの悩みや、工夫などを話しあっている。

・賀茂精神医療センターの文化祭では、パネル展示を行った。

【評価と課題】

・会場の備品手続き、当日の会場準備等は、当事者の方が行っている。

・参加者数が少ないので、会の周知について、当事者の皆さんと検討していく。

表 23 「ピアサロンこころ」の開催状況

日程(月日)	会 場	参加人数(人)
4 2	東広島市総合福祉センター	1
5 7	東広島市総合福祉センター	3
6 4	東広島市総合福祉センター	2
7 2	東広島市総合福祉センター	2

8	—	休み	—
9	3	東広島市総合福祉センター	3
10	1	東広島市総合福祉センター	2
11	5	東広島市総合福祉センター	1
12	3	休み	—
1	7	東広島市総合福祉センター	2
2	4	東広島市総合福祉センター	4
3	4	東広島市総合福祉センター	4
合 計	10 回開催	合計	24

⑮フットサル

【目 的】

- ・フットサルを通して、健康な体づくりと当事者同士の交流を図る。

【実施内容】

- ・フットサルを通して、健康的な体づくり、利用者同士のつながりを深めるために実施した。

【評価と課題】

- ・参加者から「体を動かすと、いい気分転換になる」との感想が多く聞かれた。
- ・就労している参加者の中には、勤務時間等により参加できなくなった方たちもいるが、参加者が知り合いに声をかける等により、新たな参加者が増えてきている。

表 24 平成 28 年度の「フットサル」の実施状況

月	日(曜日)	場 所	参加者数(人)				
			当事者		職員等*	合計	
			しらとり会	しらかい会			
5	1(日)	東広島運動公園	4	3	1	8	
5	29(日)	東広島運動公園	2	3	1	6	
6		雨天中止	—	—	—	—	
7	24(日)	東広島運動公園	6	2	2	10	
8		雨天中止	—	—	—	—	
9		雨天中止	—	—	—	—	
10	23(日)	東広島運動公園	3	1	2	6	
11		雨天中止	—	—	—	—	
12	25(日)	東広島運動公園	4	2	1	7	
1	22(日)	東広島運動公園	6	2	1	9	
2	26(日)	東広島運動公園	2	1	2	5	
3	26(日)	東広島運動公園	5	2	2	9	
実施回数		8回	合計	32	16	14	62

(*職員等には、しらとり会の職員のほか、他事業所の職員を含む) (1回当たり平均6人(当事者))

⑯家族のつどい

【目 的】

- ・家族が交流を通して、同じ悩みを持つ者としての共感や理解を深め、障害当事者にとってよりよい支援者になるよう、また、家族自身が元気を取り戻すことができるように支援する。

【実施内容】

- ・奇数月の第2火曜日、13:30~15:30の間、しらとり会4階にて開催した。
- ・しらとり会の利用者の家族、またそれ以外の方でも、精神疾患を持つ方の家族であれば、参加は自由としているため、口コミでつながり参加者も増えてきている。

【評価と課題】

- ・「家族のつどい」で顔なじみになり、つどい以外の場でも交流を図る家族が増えてきている。
- ・平成28年度は、実人数で18名の方が参加された。

表25 「家族のつどい」の開催状況

日程(月日)		会 場			参加人数(人)	
5	10	しらとり会	4階	食堂	8	
7	12	しらとり会	4階	食堂	9	
9	13	しらとり会	4階	食堂	14	
11	8	しらとり会	4階	食堂	7	
1	10	しらとり会	4階	食堂	8	
3	14	しらとり会	4階	食堂	9	
合 計		6回			合 計	55

(*1回の平均：9人)

⑩「東広島市障害者生活サポート事業」への協力

【目 的】

- ・障害者が地域生活において受けるおそれのある権利侵害の防止を図るため、「生活協力員（生活サポーター）」を派遣することにより、障害者の福祉の増進に質することを目的として行われる「生活サポート事業」の実施を支援する。

【実施内容】

- ・社会福祉法人平成会が事務局となり実施する「生活サポーターミーティング」について、職員の派遣及び会場の提供を行った。

【評価と課題】

- ・2月ミーティングではサポーターの参加が少なかったものの、毎回平均して8～9名の参加があった。
- ・平成29年度も引き続き、協力を行っていく。

表26 平成28年度の「生活サポーターミーティング」（精神分野）へのサポートの状況

実施月日		実施内容	参加人数(人)			
月	日		サポーター	職員	合計	
4	15	・現在活動中の方からの報告 ・生活サポートの利用希望について ・「ストレングス」について	9	3	12	
6	17	・現在活動中の方からの報告 ・「発達障害」について	9	2	11	
8	19	・現在活動中の方からの報告 ・「障害者差別解消法」について	8	1	9	
10	21	・現在活動中の方からの報告 ・「傾聴」について ・12月の合同ミーティングについて	9	3	12	
12	16	・現在活動中の方からの報告 ・「障害者差別解消法」について	12	4	16	
2	17	・現在活動中の方からの報告 ・平成29年度の生活サポーターミーティングの実施内容について	5	2	7	
合 計		6回開催	合 計	52	15	67

⑩女子会

【目 的】

・単身生活で共通の悩みを持つ女性が集まり、お互いの悩みや生活の工夫の話し合いの場を設けサポートする。

【実施内容】

- ・西条駅周辺に住み、単身あるいは高齢の親との同居の方で、日中活動等のサービスを受けていない40歳から50歳代の女性4名を対象とした当事者グループである。
- ・病気のこと、生活のことを同じ立場の人と話したい、友人になりたいというニーズから発足した。
- ・平成29年2月より、月に1回くらいで開催している。現在は、職員が会を進行している。

【評価と課題】

- ・引きこもりがちだった4名が、自分の病気のこと、生活のしづらさ、それに対する工夫などを話す中で、病気のしんどさを共有したり、教えてもらった工夫を自分でも取り入れたりするなど、月に1回の会をととても楽しみにしながら生活をしている。
- ・現在も、会場の片づけ等は利用者に手伝ってもらっている。今後、職員の担っている役割を、少しずつ利用者にも担ってもらえるような工夫を行い、将来的には、主体的に運営していけるように支援していく。

表 27 「女子会」の開催状況

開催月日		会 場	参加人数(人)			
			利用者	職員	合計	
2	9	東広島芸術文化ホール(くらら)	4	2	6	
3	16	東広島芸術文化ホール(くらら)	4	2	6	
合 計		2回開催	合計	8	4	12

(3) 住宅入居等支援事業

1) 事業実施期間

平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

2) 事業概要

賃貸契約によるアパート等への入居を希望しているが、保証人がいないなどの理由により、入居が困難な障害者に対し、入居に必要な調整等を行います。また、入居後の緊急時に対応できる夜間休日電話相談体制を整備していきます。

3) 事業内容

①入居支援

不動産業者への物件のあっせん依頼、入居契約手続き支援等、入居に必要な調整等を行います。

②地域の支援体制に係る調整

関係機関等その連携・調整を図り、安心して地域生活を維持継続していけるような支援体制を作っていきます。

③24時間支援（*アパート等での一人暮らし開始後に対応）

他の機関が休みになる夜間・休日であっても緊急時の対応ができる支援体制をとります。
（夜間電話などによる対応）

④啓発活動（研修会等）の企画・実施

※この事業は、地域移行支援事業の対象者以外の方に適応されます。

4) 実施内容

・事業対象者 0人（実施件数：0件）

5) 評価と今後の課題

- ・平成28年度は事業の対象者がおらず、実施件数は0件であった。
- ・ただ、年度当初、市内東部の山間部に両親と一緒に住まいで、両親の高齢化に伴って今後の生活のことを考え、アパートでの一人暮らしを考えたいと希望される方がいたが、父親の入院等によって、現時点では一人暮らしに向けて準備をしていくことが難しいとのことで事業を活用するまでには至らなかったケースがあった。引き続き、ご本人やご家族の状況等を確認しながら、必要が出てきた場合には対応していく。
- ・平成28年度は住まいの支援に関する研修会を実施する予定であったが、準備等が間に合わず実施することが難しかった。次年度以降の課題とする。

2. ワークセンターなかよし

(1) 就労継続支援B型事業

1) 重点項目

■一人ひとりが大事にされる環境の整備・充実

- ・利用者の求める生活を実現するため、利用者のニーズに基づいた個別支援計画を作成し、支援していく。
- ・個別支援計画に基づき、個別に振り返りを行う。
- ・ミーティング等を活用し、全員が安心して、利用できるよう、利用者・職員がともに意見を出し合い、今後のなかよしについて一緒に考えていく。

【評価と課題】

- ・随時、面接等を行い、ご本人の状況や、困っていること等を把握し、相談支援専門員等とも連携をしながら、個別支援計画に沿った支援を行った。
- ・利用者の障害種別や配慮等も多岐に渡っており、事業所内外で、連携をしながら、ひとり一人の状況に応じた支援を行った。
- ・今後も、その都度状況に合わせて対応を行っていく。

■作業活動の充実

- ・工賃向上計画に沿って、工賃アップを目指し、新しい作業の導入等を進めていく。

【評価と課題】

- ・平成 28 年度は、東広島市保育課からの依頼により、公立保育所の草取り作業を請け負った。定期的に所外での作業があることで、作業をされる利用者のモチベーションのアップにもつながった。「引き続き、定期的な所外での仕事も入れてほしい」という意見もあり、平成 29 年度も、作業の継続に向けて行政へ働きかけていく。
- ・また、チラシを配布したことにより、少しずつではあるが、個人宅の草取りや、資源回収の依頼が入ってくるようになってきた。平成 29 年度も、市内の団地等へチラシ等を積極的に配布することで、作業の開拓を行い、収入のアップにつながるよう取り組んでいく。
- ・併せて、所内での下請け作業についても、利用者の作業状況等をアセスメントしながら、新たな作業の導入について検討し、工賃アップにつなげていく。

■就労支援の推進

- ・関係機関と連携し、ご本人の状況に合わせた、就労の支援を行う。
- ・就職したのちも、職場への定着が可能となるよう、継続して支援を行う。

【評価と課題】

- ・平成 28 年度は、一般就労につなげることができなかった。
- ・平成 28 年度以前に就労された方に対して、職場定着に向けてハローワーク・就業・生活支援センター等とも連携し支援を行った。
- ・平成 29 年度は、利用者のニーズに基づき、関係機関（ハローワーク・就業・生活支援センター等）とも連携しながら、一般就労に向けての支援を積極的に行っていく。
- ・また、就労後の支援についても、必要に応じてハローワークの担当職員や、就業・生活支援センター職員等とも連携を図りながら行っていく。

2) 利用者の状況

表1 平成28年度の各月の利用の状況

月	登録者数 (月末時点)	新規利用者数	退所者数	実利用者数	開所日数	1日あたりの平均利用者数		
						平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	56人	1人	2人	41人	20日	20.0人	23.0人	23.6人
5	54	2	3	39	20	21.0	22.0	24.0
6	54	0	0	38	22	21.0	22.4	23.3
7	54	1	1	39	20	22.0	21.1	24.0
8	55	1	0	42	22	23.0	21.4	23.3
9	55	0	0	39	22	21.0	22.6	24.2
10	55	1	1	42	22	23.0	21.0	22.0
11	55	1	1	43	22	26.0	21.0	22.3
12	50	0	3	42	22	24.0	23.0	20.6
1	51	1	0	43	22	23.0	20.0	21.8
2	50	0	1	42	21	24.0	23.0	23.0
3	48	1	2	43	22	22.7	22.0	24.3
合計		9人	14人	493人	*(21.4)	*(22.5)	*(21.8)	*(23.0)

(*下段の()は、その年度の平均を示す)

・平成28年度は、これまで原則平日のみの開所(平均20日)だったところを、8月より月22日の開所としたことにより、1日あたりの利用者数が増えてきた。

・送迎の実施を継続したことで、これまで自力による通所が難しかった方が、送迎を利用することにより定期的な通所が可能となって通所日数が増え、生活リズム等が整ってきた方もいる。また、送迎の利用により、本人の望む作業等の活動に参加をする機会を保障することができた点等、評価できると考える。

・平成29年度については、より積極的に通所し、作業等の活動に参加してもらえるように、個々の状況に対応できるよう、作業環境や作業内容等の工夫や配慮等を行っていく。

表2 平成28年度の利用状況

項目	平成28年度	平成27年度	平成26年度
月平均利用者数	39.9人	39.6人	40.3人
月平均開所数	21.4日	20.5日	20日
1日平均利用者数	22.5人	21.8人	23.0人

表3 平成28度末の登録者の性別及び年齢別構成

項目		平成28年度	平成27年度	平成26年度
年度末現在の登録者数		48人	57人	54人
性別	男性	39	46	40
	女性	9	11	14
年齢別	10歳代	0	0	0
	20歳代	2	3	1
	30歳代	13	18	21
	40歳代	19	20	16
	50歳代	7	10	13
	60歳代	6	6	3
	70歳代	1	0	0

表4 平成28年度中の新規利用者及び退所者の状況

新規利用者数	9人		
退所者数	14人		
	内訳	他事業所利用	2人
		入院	2
		その他	1
		在宅	8
転居		1	

・新規利用者の紹介経路は、まほろばの相談支援専門員、はあとふる、他機関からの紹介、医療機関からの紹介だった。

3) 作業等の活動の状況等

① 作業活動の内容

・作業内容は、2つに分かれる。

- a) 下請け作業 :
- ・菓子箱折り作業 (㈱さくらや)
 - ・段ボールの組立て作業 (㈱広島キョードー)
 - ・段ボールの組立て作業 (松田葵ダンボール㈱)
 - ・自動車部品の加工作業 (㈱山本製作所)
 - ・自動車部品の加工作業 (㈱ライトプランニング)

- b) 請負作業 :
- ・清掃作業 (㈱ぼけっと)
 - ・地方情報誌の配布作業 (プレスネット折込センター)
 - ・自動販売機の維持管理作業 (しらとり会後援会)
 - ・資源回収作業 (しらとり会後援会)
 - ・保育所の草取り (東広島市 保育課)
 - ・個人宅の草取り等

② 各作業の具体的な取り組みについて

○下請け作業

■段ボールの組立て作業 (㈱広島キョードー)・(松田葵ダンボール㈱)

【実施内容】

- ・平成28年5月から他事業所からの紹介により、松田葵ダンボール㈱のダンボール組立ての作業を導入した。
- ・不良品や数に間違いが出ないように、完成品のチェック等を利用者同士で確認し合った。
- ・ミーティング等でも話し合い、改善に向けて取組んだ。

【評価と課題】

- ・結束等のミスなどもほとんどなく、作業を進めることができた。
- ・今後も作業ミーティングを活用し、利用者・職員で話し合い改善に向け取り組んでいく。

■菓子箱折り作業 (㈱さくらや)

【実施内容】

- ・連休前やお盆前・年末など、繁忙期には、一日の製作個数の目標数を決めて作業に取り組むなど、混乱なく順調に作業活動を行うことができた。
- ・新規の利用者や作業が不得意な利用者には利用者同士で教えあい、職員がサポートするなどして、多くの利用者が作業に入れるようにした。
- ・必要に応じて、ミーティングで話し合いを行った。

【評価と課題】

- ・折り間違いや箱の破れ等の不良品が出ないようにと、完成品のチェックを行うようになってからは、不良品が減ってきた。

・繁忙期に入る時には、早め早めに材料を出してもらったので、あまり利用者の負担になることもなく、納期に間に合うように作業を進めることができた。

■自動車部品の加工作業（岡山本製作所）

【実施内容】

- ・新たにシール貼り・バリ取りの作業が入った。
- ・材料請け、納期の確認、在庫管理は、利用者が主体的に取り組むことができていた。納品や材料請けは、特に数が多い時などは2人体制で行うようにしていった。

【評価と課題】

- ・年度途中よりシール貼りの作業が入ってきた。職員が作業開拓をし、新しい作業として開始した。
- ・納期の確認や在庫管理等も、利用者が率先して行うことができていた。

■自動車部品の加工作業（楠ライトプランニング）

【実施内容】

- ・自動車部品の加工（部品へのシール貼り及び金具の取り付け等）作業を行った。
- ・自動車部品の点検作業を行った。
- ・平成29年2月より、新たにコネクタ（4種類の14cmのコードを7cmのチューブに入れてまとめる作業）・クリップ付けの作業が入った。

【評価と課題】

- ・流れ作業にすることで効率もあがり、入荷数を増やすことができた。
- ・年度の途中（平成28年12月）、自動車部品の加工作業がなくなったため、職員が作業開拓を行い、平成29年2月より新しい作業を開始した。

○請負作業

■清掃作業（楠ぼけっと）（個人宅）

【実施内容】

- ・アパートの清掃は、共有部分（玄関・廊下・階段・周囲等）の作業を行った。
- ・参加者を募集して1か月のシフト表を作成し、作業を実施した。
- ・初めての参加者には、職員がサポートしながら行った。
- ・月に一度、ミーティングを行った。

【評価と課題】

- ・それぞれが自分の役割を理解し、率先して準備から作業・片付けまで行うことができていた。

■地方情報誌（プレスネット）の配布作業

【実施内容】

- ・木曜日及び金曜日に実施した。木曜日については、作業時間前と午後からの作業時間のときに、金曜日については、作業時間後に実施した。
- ・固定の利用者（3～4人）の参加となった。
- ・月に一度ミーティングを実施し、シフト表を作成し実施した。

【評価と課題】

- ・新規の利用者も配布されるようになった。
- ・今後も引き続き、工賃アップや一般就労に向けての体力づくりを目指す利用者のニーズに合わせた作業として取り組んでいく。

■自動販売機の維持管理作業

【実施内容】

- ・週に1～2回程度を目安に補充作業を行い、月1回程度売上金の計算作業を行った。
- ・商品の補充、売上金計算作業とも利用者・職員で一緒に行った。
- ・売り切れ商品があると利用者が主体的に補充作業を行うなどして、できるだけ売り切れの状態

が続かないように対応した。

【評価と課題】

- ・季節の変わり目（ホット⇄コールド）の切り換えや、商品の品切れ等に注意し、在庫管理に気をつけていく。

■資源回収作業

【実施内容】

- ・定期的な依頼分については、毎週水曜日に回収を行った。
- ・資源回収のチラシを作成し、市内の各団地へ配布した。
- ・新聞・雑誌・段ボール等の仕分け作業については2か月に1回の割合で、空缶つぶしと仕分け等の作業については3か月に1回の割合で行い、リサイクル業者に持って行った。

【評価と課題】

- ・地域の方からの定期的な協力もあり、途切れることなく回収できている。
- ・資源回収のチラシを作成し配布した結果、少しずつではあるが、回収の依頼も入ってきている。
- ・回収したものが溜まりすぎると置き場所に困ることがあるので、定期的に仕分け等の作業を行っていく。
- ・引き続き、チラシを市内の団地等へ配布し、回収の依頼先を増やしていく。

■その他の作業等（行政からの受注）

【実施内容】

- ・平成28年度は、東広島市保育課より、公立保育所の園庭の草取り等の清掃作業の依頼があった。（10件）

【評価と課題】

- ・平成29年度についても、行政に働きかけを行っていく。

■その他の作業等（個人からの依頼）

【実施内容】

- ・個人宅の草取り等の依頼があり随時対応した。（5件）

【評価と課題】

- ・市内の団地等にチラシ等を配布して拡大に向けて取り組んでいった結果、少しずつではあるが草取り・枝払い等の庭掃除の依頼があった。
- ・実際に参加した利用者から、「外の作業を行うことで、気分転換にもなり作業意欲も湧いた」との意見があった。
- ・引き続き、チラシ等を配布することで、依頼先を開拓していく。

③ 工賃の状況

■下請け作業の計算方法については、次の計算方法による。

（4月～8月）

○1時間単価 230円 × 各利用者の1か月の作業時間 = 各利用者の1か月の工賃

（9月～ ） （*9月より1時間の単価を50円下げ、180円とした）

○1時間単価 180円 × 各利用者の1か月の作業時間 = 各利用者の1か月の工賃

■清掃作業については1時間あたり、

・3・4・5・9・10・11月 …… 500円

・6・7・8・12・1・2月 …… 550円

・地方情報誌の配布作業は、1回の配布につき、

・木曜日の配布作業 …… 800円（内訳 朝：140円、夕：660円）

・金曜日の配布作業 …… 650円

・草取り作業（個人宅・保育所）は、1時間600円

■利用者の作業等の活動への参加へのモチベーションアップのために、出勤日数に応じて精勤手当を支給した。

通所	5日	～	9日	・・・	300円
	10日	～	14日	・・・	500円
	15日	～	19日	・・・	800円
	20日以上			・・・	1,000円

・平成28年度の年間の平均工賃は 7,920円であった。（*平成27年度平均工賃：9,069円）

・作業収入及び工賃等の状況については平成28年度も、作業収益に対し支出の方が多かった。
 ・平成27年度からの状況を踏まえ検討の結果、9月から、下請作業の時間単価を230円から180円に下げた。

・下請仕事については、以前と比べて、作業単価が下がっていることも原因となっている。少しでも、作業単価が高い作業を導入すべく検討したが、作業が緻密になりすぎるあまり、誰もがチャレンジできるものとして工夫できるところまでには至らなかった。

・平成29年度も引き続き、個々の利用者の特性を丁寧にアセスメントしながら、新しい作業を確保し、工賃アップについて検討していく。

（*表5 平成28年度のワークセンターなかよしの作業等の収入及び工賃等の支出の状況）

4) その他の活動

■なかよしミーティング

【実施内容】

- ・なかよしミーティングは、工賃支給日の朝、実施した。（都合で出来ない時は翌日）
- ・議題としては、その時々々の作業ついてや、なかよし全体の活動等について意見を出し合った。
- ・ミーティングの司会や書記を利用者が担当し、利用者主体で進めていった。

【評価と課題】

- ・利用者からも積極的に意見が出てくるようになった。
- ・引き続き、職員が司会者や書記の方をフォローすることで、より意見が出やすいように支援していく。

表6 平成28年度のミーティングの実施状況

実施日	内 容（議 題）		参加者数 （人）
4	25	連休明けの作業について	12
5	-	実施せず	-
6	-	実施せず	-
7	25	工賃について（職員より）	12
8	25	先月のしらとり会ミーティングの議題について	13
9	26	作業等に関する思い・感想等	11
10	26	作業マニュアルについて	14
11	25	トイレの使用について・言葉使いについて・インフルエンザについて	15
12	22	トイレの使用について	12
1	25	トイレの使用について	10
2	28	新しい作業について	11
3	-	実施せず	-
実施回数	9回		平均12.2人

*5・6・3月については、作業等の都合により実施しなかった。

■利用者との振り返り

【実施内容】

- ・面接等を行い、個別支援計画の作成（変更）およびモニタリング（中間評価）を行った。

【評価と課題】

- ・個別支援計画に沿って、振り返りを行った。今後も引き続き行っていく。

■健康管理

【実施内容】

- ・1階・3階の作業フロアに、転倒災害防止や、時期に応じて熱中症、インフルエンザ等のポスター等を掲示し、利用者に注意を促した。
- ・協力医療機関の協力のもと、インフルエンザの予防接種を実施した。（10人実施）

【評価と課題】

- ・今後も、所内の安全面に注意していくとともに、必要に応じて医療機関等と連携を図りながら感染症等の予防や、健康の維持にも努めていく。

■就職に向けての支援・就職後のフォローアップ

【実施内容】

- ・平成28年度中に一般就労等にチャレンジした利用者は0人だった。
- ・平成28年度より以前に就労された方についても、職場定着に向けてハローワーク等とも連携し支援を行った。

【評価と課題】

- ・平成28年度は、一般就労につなげることができなかった。
- ・平成29年度は、利用者のニーズに基づき、関係機関等とも連携しながら、一般就労に向けての支援を積極的に行っていく。
- ・また、就労後の支援についても、必要に応じて関係機関等とも連携を図りながら行っていく。

■送迎

【実施内容】

- ・週三日（月・水・金）、朝・夕に実施した。（朝：8：30～9：30の間）（夕：15：30～16：30の間）
- ・ルートは、総合福祉センター・西条駅方面、及び西高屋方面とした。

【評価と課題】

- ・送迎があることで、新規の利用につながった。
- ・職員体制や経費の面から、現時点では実施日数を増やすことは難しいが、平成29年度も引き続き送迎を行っていく。
- ・個別支援計画に基づきながら、送迎の利用希望者について検討をしていく。

表7 平成28年度の送迎の実施状況

月	実施日数	延利用者数
4	12日	96人
5	12	102
6	13	99
7	12	80
8	13	101
9	13	98
10	13	105
11	13	127
12	12	104
1	12	103
2	12	113
3	13	115
合計	150	1243

（※送迎1回（片道）の平均乗車人数：4人）

(2) 自立訓練（生活訓練）事業

1) 利用者の状況

表8 年間を通しての実利用者の状況

	年間の 実利用者数	昨年度からの 継続利用者	新規利用者	
			しらとり会の相談支 援専門員からの紹介	その他の関係機関から の紹介
平成27年度	23人	14人	9人	5人
平成28年度	21人	11人	10人	6人

・平成27年度と比較し、平成28年度は新規利用者（その他の関係機関からの紹介）が増えた。その他の関係機関とは、精神科病院、東広島市役所子ども家庭課・社会福祉課・障害福祉課、はあとふる等である。

表9 平成28年度の各月の利用の状況

月	実利用者数	新規利用者数	利用終了者数 (※1)	中途退所者数 (※2)	1日あたりの 平均利用者数	開所数	延べ利 用者数
4	12	1	1	0	3.7	20	74
5	13	2	1	0	4	19	76
6	12	0	0	0	3.6	22	81
7	12	0	0	0	3.4	19	65
8	12	0	0	0	3.2	21	69
9	13	2	1	0	3.4	20	69
10	11	0	1	1	3	20	60
11	11	2	0	0	2.9	20	59
12	13	0	0	1	3.1	16	50
1	12	0	0	0	2.5	19	48
2	12	2	1	0	3.2	22	72
3	14	1	0	1	3.1	21	66
	平均 12.25	合計 10人	合計 5人	合計 3人	平均 3.2	平均 19	789

(※1) 利用終了者とは、その月の末日に2年間の利用期間を終えた利用者のこと。

(※2) 中途退所者とは、2年未満で利用を終了した利用者のこと。

・1日当たりの平均利用者数と延べ利用者数をみると、1月が最も少ない。これは、体調を崩し事業を利用しなかった者が他の月と比べて多かったためである。

表10 平成28年度の利用状況

項目	平成28年度	参考
		平成27年度
月平均実利用者数	12人	13人
月平均開所数	19日	19日
1日あたりの平均利用者数	3.2人	3.4人

・平成27年度と比較し、平成28年度は1日あたりの平均利用者数が若干減少した。（利用者が体調不良のためキャンセルしたこと等による）

2) 活動の状況

(1) 重点項目

1. 個別支援計画の作成

〔利用者一人ひとりに個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行っていく。〕

2. プログラムの充実

〔全国的に先駆的な取り組みをしている事業所の情報収集、研修に参加する。そこで学びえた事柄について職員で共有し、利用者の声をもとに新たなプログラムを検討していく。〕

3. 関係機関への周知

〔相談支援事業所連絡会（NETZ 東広島）や、東広島市の相談支援事業所等に生活訓練事業の情報提供や実績報告する機会を作る。〕

【評価と課題】

1. 個別支援計画の作成

・利用者一人ひとりに個別支援計画を作成し、個々の状況に応じて（1回/1か月、1回/3か月、1回/6か月）モニタリングを実施したことで、利用者と目標の確認ができた。

2. プログラムの充実

・インターネットで検索し、富山県の事業所での実践状況を情報収集したが、その取り組み、利用者の声をもとに新たなプログラムを検討するところまでには至らなかった。

3. 関係機関への周知

・関係機関からの周知について、しらとり会以外の東広島市の相談支援事業所の相談支援専門員や行政の相談窓口の担当者、医療機関の相談窓口の担当者（精神保健福祉士等）からの紹介が昨年より増えてきているため、生活訓練事業について浸透してきていると思われる。また、関係機関等より連絡を受け、担当者や利用者对生活訓練について説明（情報提供）を行ったことで、利用契約に結びついたケースがあった。

(2) 支援目標

1. 利用者一人ひとりが描いている生活のイメージや現在の生活状況について話を聞き、希望や目標に近づくための方法を一緒に考えていく。

【評価と課題】

・利用者の目標に対して、一緒に工夫を考え利用者のペースに合わせて実践することで、利用者自身のできる事が増え、目標達成に近づくことができた。

2. 実際の生活に近い体験等を行うことを通して、社会生活力やコミュニケーションの向上を図る事を支援していく。

【評価と課題】

・個別支援計画を基に定期的に支援をする中で、利用者より訓練以外の相談があった。その際は、タイムリーに相談支援専門員や関係機関と連携を取りながら対応することができたことは評価できる。

3. 利用者一人ひとりの支援目標に対して、モニタリング・計画の修正等を行いながら、利用者のエンパワメントが図れるように支援していきます。

【評価と課題】

・利用者の状況に応じてモニタリングの頻度を調整したことで、利用者と共に目標や実施内容の確認・計画の修正をすることができた。また、利用2年目に入った利用者に対しては、利用終了後を見視野に入れたモニタリングや相談支援専門員と連携を図ったことで、生活訓練終了後も利用者が希望する生活が継続できたと考えられる。

3) 具体的な訓練内容について

【実施内容】

- ・片付けが苦手な方、初めて一人暮らしをするため家事全般やったことのない方、親亡き後を考えてできることを増やしていきたい方等、利用者一人ひとりのニーズにもとづき実施した。
- ・利用者の中には、生活訓練の目標が1つの方、或いは目標が複数(2つ以上)の方がいた。
- ・利用者一人ひとりのニーズに応じて、また、体調に合わせて臨機応変に対応し、通所と訪問を組み合わせた訓練を行った。

表 11 訓練内容と訓練方法別(通所・訪問・同行)の利用者数

訓練方法		訓練内容	利用者数 (※3)
通所	個別	生活リズムの確立	1人
		洗濯、買い物、掃除などの習得	1
	GW	調理方法の習得(「プチクッキング」)	3
【訪問：個別】	健康管理の習得(会話で対処方法を習得)		2
	家事全般の習得	調理	8
		洗濯・衣類等の整理	9
		掃除・片付け	13
		ごみの分別・捨て方	4
	子育て、子どもへの関わりについて		3
	金銭管理の習得		3
コミュニケーション力の獲得		2	
【同行：個別】	日常生活関連動作の習得(買い物)		6
	自分自身の症状を主治医に伝える力の習得		1
	健康管理(ウォーキング)		1
	事業所等への見学・参加		3
	社会資源の活用・利用(年金申請)		1
	その他生活を豊かにするのに必要な支援や訓練(外出する機会)		3

(参考文献：「訪問による生活訓練事業の進め方 暮らしの中に届ける福祉」)

(※3) 目標が複数ある利用者の場合、それぞれの目標にカウントしている。

【評価と課題】

- ・訪問や同行(実生活に近い場所)で訓練したことで、利用者にとって安心して取り組むことができ、生活スキルの向上に繋がった。
- ・利用者の関係性を意識しつつ利用者のペースに合わせてながら一緒に取り組んだことで、目標達成に近づくことができた。

○その他

(生活訓練ミーティング)

【実施内容】

- ・2か月に1回、10時から11時の間、相談支援専門員と生活訓練の担当職員が参加し実施した。

【評価と課題】

- ・訓練プログラムの報告や実施内容の検討、利用者の状況について、職員間で情報の共有や方向性を確認することができたため、今後も実施していく。

3. その他の活動等

○地域に対する活動等

■印刷作業

【実施内容】

- ・関係機関（広島県精神障害者支援事業所連絡会）等からの依頼を受け、印刷作業を行った。

【評価と課題】

- ・関係団体等から依頼を受け、印刷作業を行った。
- ・今後も依頼があれば、地域貢献の一つとして行っていく。

4. 苦情解決等

○意見箱および利用者からの意見等について

■苦情解決等

- ・平成 28 年度に、しらとり会ミーティングで報告した意見箱の内容及び、しらとり会ミーティングで話し合った対応策は、表のとおりである。
- ・意見箱は、しらとり会の 1 階と 2 階に設置している。

表 1 平成 28 年度の意見箱等の内容と、しらとり会ミーティングで話し合った対応策

月	件数	利用者からの意見	しらとり会ミーティングで話し合った対応策
4	1	「好き勝手に設営とかをさぼるくせにプレスネット会議でエラそうに自分が出たいものを選ぶ人間がいる。はっきり言って目障りなのでやめてほしい」	→ワークセンターなかよしでの作業のことなので、作業ミーティングで話し合うことになった。
5	1	「花を真ん中より、周りに置いてほしい。新聞を読んだり、昼食を食べるとき邪魔です」	→机の上の花瓶が邪魔なときは動かして、用がすんだら、また元へ戻すことになった。
6	1	「公衆電話の調子が悪いので、直してほしい」	→NTTの方に検査してもらい、特に問題はないと言われた。もし不具合があればまた職員に伝えてもらうことになった。
7	0	※利用者の方からの意見及び要望はありませんでした。	
8	2	「工賃をあげてほしい」	→なかよしミーティングで話し合うことになった。
		「求人票を毎月とってきてほしい」	→近いうちに職安に取りに行く。
9	0	※利用者の方からの意見及び要望はありませんでした。	
10	0	※利用者の方からの意見及び要望はありませんでした。	
11	0	※利用者の方からの意見及び要望はありませんでした。	

12	1	「メンバー同士で注意しあうのはやめてほしい。トラブルのもとになるから職員を通して言ってほしい」	→（職員会議で協議し、1月のしらとり会ミーティングで所長より返答）他のメンバーについて気になる事があれば、利用者同士では言いづらいたと思いますので、職員に声をかけてください。ということになった。
1	0	※利用者の方からの意見及び要望はありませんでした。	
2	4	「トイレに鍵をかけない人がいるので、張り紙をしてほしい」	→1人1人のモラルの問題なので、各自で気を付けていき、それでもまた同じようなことがあれば、再度意見箱に入れてもらうということになった。
		「あいさつをしてもあいさつをしない職員がいるので、あいさつはきちんとしてほしい」	→（所長より）職員を統括するものとしてお詫びします。あいさつをしていないかどうかはわかりにくいかもしれませんが、リアクションが薄いとわかりにくいのかもしれません。職員会議でも話をするということになった。
		「ロッカーがなく荷物が置けないので、2階の本棚を整理して荷物やかばんを置くスペースを作ってほしい」	→2階の本棚については整理した。なかよしのロッカーについては、就職などでここを終了された方の名前ついているものもあるため、調整することになった。
		「座れないからソファに荷物を置くのをやめてほしい」	→みんなで気をつけていくということになった。
3	4	「CDラジカセを英語の勉強に使うのをやめてほしい。音楽をきくものだから私用に使うのはやめてほしい」	→英語の勉強が私用なら、音楽を聴くのも私用ではないか。つけっぱなしは良くないが、勉強したり音楽でリラックスをしたりするのは良いことだと思うので、それぞれ使い方に気をつけていくということになった。
		「名前を呼び捨てやお前こいつとすることをやめてほしい。ちゃんとさんづけで名前を呼んでほしい」	→利用者同士、利用者と職員との関係でお互いを尊重するのは大切。こいつ呼ばわりはやめましょうということになった。
		「食器は洗剤を使って洗って欲しい。皆が使うから」	→個人個人でマナーを守っていくということになった。
		※他1件は、投書者から取り下げたいとの話があり、ミーティングには取りあげなかった。	
意見箱件数		計 14 件	

表2 意見箱の件数の推移

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
意見箱件数	14件	19件	15件

5. 防災・安全

①防災訓練等の実施

【目的】

- ・火災等の非常時に際して、安全かつ速やかに屋外に避難ができるよう、実地に訓練を行い、意識を高める。
- ・人工呼吸法やAEDの使用法を実地に学ぶことで、緊急の際に対応ができるように備える。

【実施内容】

- ・平成28年度は、防災訓練（避難訓練・通報訓練・消火訓練）を10月と3月に実施した。また、10月には救急講習を実施した。
- ・10月の訓練では、消防署員の立会いのもと避難訓練・通報訓練及び、消火訓練を行った。あわせて、消防署員の実地の指導により、救急講習を実施した。

表1 平成28年度の防災訓練等の実施状況

日程		実施内容	参加者数（人）		
月	日		利用者	職員	合計
10	25	防災訓練（避難訓練、通報訓練、消火訓練（水消火器による））	20	8	28
		救急講習（人工呼吸法、AEDの使用法等）			
3	24	防災訓練（避難訓練、通報訓練）	26	8	34
実施回数		2回	合計		62

*10月の訓練時には、消防署員3名の立会いのもと実施した。

【評価と課題】

- ・利用者の協力により、避難訓練は冷静・迅速に対応できており、安全面に配慮しながら避難できていた。
- ・地震や火災等の非常時に備えて、常日頃より安全かつ迅速に対応できるよう、今後も継続して訓練等を実施していく。
- ・救急講習については、利用者からの要望もあり、平成29年度からは年に1回実施していく。

②インフルエンザの予防接種の実施等（感染症等の予防）

【実施内容】

- ・各フロアへ、インフルエンザについてのポスターを掲示し、予防に向けて利用者に周知した。
- ・インフルエンザの予防接種については、協力医療機関（かなたクリニック）である金田医師に協力をお願いし、実施した。（*平成28年11月10日（木）実施、10名接種）
- ・1階玄関及び2階東側階段入り口には、消毒用のジェル等を設置し、来館者へ消毒を促した。
- ・また、各フロア、台所及びトイレ等へも消毒用のスプレーを設置し、積極的な利用を促した。

【評価と課題】

- ・インフルエンザについては、職員2名、利用者1名の罹患があったが、それ以上は広がることもなく終息した。
- ・今後も引き続き、インフルエンザだけでなく、感染症、食中毒等の発生の予防に努めていく。

平成 28 年度
社会福祉法人しらとり会 収支決算報告

1. 資金収支計算書	・・・ 4 2
2. 事業活動計算書	・・・ 4 4
3. 貸借対照表	・・・ 4 6
4. 財務諸表に対する注記（法人全体用）	・・・ 4 8
5. 基本財産及びその他固定資産（有形・無形固定資産）明細書	・・・ 5 1
6. しらとり会拠点区分 事業活動明細書	・・・ 5 2
7. 財産目録	・・・ 5 4
8. 残高証明書	・・・ 5 5

第一号第一様式(第十七条第四項関係)
資金収支計算書

(自)平成28年4月1日 (至)平成29年3月31日

社会福祉法人しらとり会

(単位:円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)-(B)	備 考
収入	就労支援事業収入	2,710,000	2,814,154	△104,154	
	受注事業収入	2,000,000	2,041,356	△41,356	
	サービス事業収入	710,000	772,798	△62,798	
	障害福祉サービス等事業収入	62,028,100	62,154,816	△126,716	
	自立支援給付費収入	41,634,000	41,932,039	△298,039	
	訓練等給付費収入	35,534,000	35,682,929	△148,929	
	地域相談支援給付費収入	300,000	404,210	△104,210	
	計画相談支援給付費収入	5,800,000	5,844,900	△44,900	
	利用者負担金収入	198,700	207,812	△9,112	
	その他の事業収入	20,195,400	20,014,965	180,435	
	受託事業収入	20,195,400	20,014,965	180,435	
	借入金利息補助金収入	22,000	22,000	0	
	借入金利息補助金収入	22,000	22,000	0	
	経常経費寄附金収入	1,100,000	1,093,360	6,640	
	経常経費寄附金収入	1,100,000	1,093,360	6,640	
	受取利息配当金収入	72	89	△17	
	受取利息配当金収入	72	89	△17	
	その他の収入	171,000	182,826	△11,826	
	雑収入	171,000	182,826	△11,826	
		事業活動収入計(1)	66,031,172	66,267,245	△236,073
事業活動による収支	人件費支出	50,400,822	50,591,616	△190,794	
	職員給料支出	31,627,000	31,636,068	△9,068	
	職員賞与支出	10,417,622	10,417,622	0	
	非常勤職員給与支出	1,512,500	1,523,062	△10,562	
	退職給付支出	491,700	491,700	0	
	法定福利費支出	6,352,000	6,523,164	△171,164	
	事業費支出	1,118,900	1,148,609	△29,709	
	教養娯楽費支出	60,600	59,709	891	
	水道光熱費支出	544,000	556,121	△12,121	
	燃料費支出	11,300	9,990	1,310	
	車両費支出	503,000	522,789	△19,789	
	事務費支出	5,235,749	5,113,947	121,802	
	福利厚生費支出	90,738	90,007	731	
	旅費交通費支出	405	405	0	
	研修研究費支出	197,400	196,640	760	
	事務消耗品費支出	209,500	193,438	16,062	
	水道光熱費支出	544,000	556,088	△12,088	
	燃料費支出	283,000	281,061	1,939	
	修繕費支出	4,860	4,860	0	
	通信運搬費支出	448,000	441,795	6,205	
	会議費支出	2,000	1,944	56	
	業務委託費支出	982,200	880,744	101,456	
	保険料支出	440,000	413,249	26,751	
	賃借料支出	684,000	706,736	△22,736	
	土地・建物賃借料支出	116,400	116,400	0	
	租税公課支出	31,000	30,300	700	
	保守料支出	820,184	812,395	7,789	
渉外費支出	10,000	10,000	0		
謝金支出	60,000	55,550	4,450		
費用弁償費支出	6,000	6,000	0		
諸会費支出	302,562	301,750	812		
雑支出	3,500	14,585	△11,085		

第一号第一様式(第十七条第四項関係)
資金収支計算書

(自)平成28年4月1日 (至)平成29年3月31日

社会福祉法人しらとり会

(単位:円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)-(B)	備 考	
事業活動による収支	支出	就労支援事業支出	3,920,000	3,914,663	5,337	
		就労支援事業販売原価支出	3,920,000	3,914,663	5,337	
		就労支援事業製造原価支出	3,920,000	3,914,663	5,337	
		支払利息支出	80,800	80,800	0	
		支払利息支出	80,800	80,800	0	
		流動資産評価損等による資金減少額	0	2,227	△2,227	
		徴収不能額	0	2,227	△2,227	
		事業活動支出計(2)	60,756,271	60,851,862	△95,591	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		5,274,901	5,415,383	△140,482		
施設整備等による収支	収入	施設整備等寄附金収入	600,000	600,000	0	
		設備資金借入金元金償還寄附金収入	600,000	600,000	0	
		施設整備等収入計(4)	600,000	600,000	0	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	1,010,000	1,010,000	0	
		設備資金借入金元金償還支出	1,010,000	1,010,000	0	
		固定資産取得支出	739,460	739,460	0	
		車輛運搬具取得支出	739,460	739,460	0	
施設整備等支出計(5)	1,749,460	1,749,460	0			
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△1,149,460	△1,149,460	0		
その他の活動による収支	収入	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出	その他の活動支出計(8)	0	0	0	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	0	0	
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		4,125,441	4,265,923	△140,482		
前期末支払資金残高(12)		0	55,043,019	△55,043,019		
当期末支払資金残高(11)+(12)		4,125,441	59,308,942	△55,183,501		

第二号第一様式(第二十三条第四項関係)
事業活動計算書

(自)平成28年4月1日(至)平成29年3月31日

社会福祉法人しらとり会

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
収益	就労支援事業収益	2,814,154	2,726,739	87,415	
	受注事業収益	2,041,356	1,863,560	177,796	
	サービス事業収入	772,798	863,179	△90,381	
	障害福祉サービス等事業収益	62,154,816	40,264,560	21,890,256	
	自立支援給付費収益	41,932,039	40,220,369	1,711,670	
	訓練等給付費収益	35,682,929	34,044,369	1,638,560	
	地域相談支援給付費収益	404,210	484,840	△80,630	
	計画相談支援給付費収益	5,844,900	5,691,160	153,740	
	利用者負担金収益	207,812	44,191	163,621	
	その他の事業収益	20,014,965	0	20,014,965	
	受託事業収益	20,014,965	0	20,014,965	
	受託事業収益	0	20,302,900	△20,302,900	
	受託事業収益	0	20,302,900	△20,302,900	
	経常経費寄附金収益	1,093,360	832,000	261,360	
経常経費寄附金収入	1,093,360	832,000	261,360		
サービス活動収益計(1)	66,062,330	64,126,199	1,936,131		
サービス活動増減の部	費用	人件費	50,194,655	52,070,863	△1,876,208
		職員給料	31,636,068	30,300,171	1,335,897
		職員賞与	6,861,413	10,040,045	△3,178,632
		賞与引当金繰入	3,159,248	3,556,209	△396,961
		非常勤職員給与	1,523,062	1,515,112	7,950
		退職給付費用	491,700	491,700	0
		法定福利費	6,523,164	6,167,626	355,538
		事業費	1,148,609	1,319,856	△171,247
		教養娯楽費	59,709	54,719	4,990
		水道光熱費	556,121	548,372	7,749
		燃料費	9,990	15,480	△5,490
		消耗器具備品費	0	91,000	△91,000
		車輛費	522,789	610,285	△87,496
		事務費	5,113,947	6,181,147	△1,067,200
		福利厚生費	90,007	81,296	8,711
		旅費交通費	405	6,500	△6,095
		研修研究費	196,640	139,570	57,070
	事務消耗品費	193,438	308,717	△115,279	
	印刷製本費	0	27,000	△27,000	
	水道光熱費	556,088	548,331	7,757	
	燃料費	281,061	279,034	2,027	
	修繕費	4,860	735,558	△730,698	
	通信運搬費	441,795	572,097	△130,302	
	会議費	1,944	1,944	0	
	業務委託費	880,744	916,212	△35,468	
	保険料	413,249	368,030	45,219	
	賃借料	706,736	634,640	72,096	
	土地・建物賃借料	116,400	262,400	△146,000	
	租税公課	30,300	26,850	3,450	
	保守料	812,395	889,710	△77,315	
	渉外費	10,000	10,000	0	
	謝金費	55,550	47,773	7,777	
	費用弁償費	6,000	0	6,000	
	諸会費	301,750	301,201	549	
雑費	14,585	24,284	△9,699		
就労支援事業費用	3,914,663	4,247,165	△332,502		
就労支援事業販売原価	3,914,663	4,247,165	△332,502		
当期就労支援事業製造原価	3,914,663	4,247,165	△332,502		

第二号第一様式(第二十三条第四項関係)
事業活動計算書

(自)平成28年4月1日(至)平成29年3月31日

社会福祉法人しらとり会

(単位:円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)	
サービス活動増減の部	費用	減価償却費	3,089,600	2,955,142	134,458
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△2,604,620	△2,604,620	0
		徴収不能額	2,227	0	2,227
		サービス活動費用計(2)	60,859,081	64,169,553	△3,310,472
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	5,203,249	△43,354	5,246,603	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	22,000	27,000	△5,000
		借入金利息補助金収入	22,000	27,000	△5,000
		受取利息配当金収益	89	947	△858
		受取利息配当金収入	89	947	△858
		その他のサービス活動外収益	182,826	532,077	△349,251
		雑収益	182,826	532,077	△349,251
		サービス活動外収益計(4)	204,915	560,024	△355,109
	費用	支払利息	80,800	96,960	△16,160
		支払利息支出	80,800	96,960	△16,160
		サービス活動外費用計(5)	80,800	96,960	△16,160
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	124,115	463,064	△338,949	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	5,327,364	419,710	4,907,654	
特別増減の部	収益	施設整備等寄附金収益	600,000	500,000	100,000
		設備資金借入金元金償還寄附金収益	600,000	500,000	100,000
		特別収益計(8)	600,000	500,000	100,000
	費用	基本金組入額	751,700	500,000	251,700
		固定資産売却損・処分損	1	0	1
		車輛運搬具売却損・処分損	1	0	1
	特別費用計(9)	751,701	500,000	251,701	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△151,701	0	△151,701	
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	5,175,663	419,710	4,755,953	
繰越活動増減差額の部		前期繰越活動増減差額(12)	54,845,744	54,426,034	419,710
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	60,021,407	54,845,744	5,175,663
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	60,021,407	54,845,744	5,175,663

第三号第一様式(第二十七条第四項関係)
貸借対照表

平成29年3月31日 現在
社会福祉法人しらとり会

(単位:円)

	資産の部		
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	61,451,084	57,288,408	4,162,676
現金預金	53,565,360	50,165,693	3,399,667
現金	0	0	0
預金	53,565,360	50,165,693	3,399,667
事業未収金	7,199,108	6,812,033	387,075
未収補助金	22,000	27,000	△5,000
未収収益	499,255	279,170	220,085
一般	499,255	279,170	220,085
立替金	0	0	0
前払費用	165,361	4,512	160,849
仮払金	0	0	0
固定資産	104,084,637	106,434,778	△2,350,141
基本財産	102,268,801	104,770,980	△2,502,179
建物	101,268,801	103,770,980	△2,502,179
定期預金	1,000,000	1,000,000	0
その他の固定資産	1,815,836	1,663,798	152,038
車輛運搬具	1,565,142	1,228,191	336,951
器具及び備品	107,914	225,627	△117,713
権利	13,980	13,980	0
ソフトウェア	128,800	196,000	△67,200
資産の部合計	165,535,721	163,723,186	1,812,535

第三号第一様式(第二十七条第四項関係)
貸借対照表

平成29年3月31日 現在
社会福祉法人しらとり会

(単位：円)

負債の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	6,311,390	6,811,598	△500,208
1年以内返済予定設備資金借入金	1,010,000	1,010,000	0
未払費用	1,959,292	2,064,825	△105,533
一般	1,959,292	2,064,825	△105,533
預り金	2,220	1,554	666
職員預り金	180,630	179,010	1,620
仮受金	0	0	0
賞与引当金	3,159,248	3,556,209	△396,961
固定負債	3,030,000	4,040,000	△1,010,000
設備資金借入金	3,030,000	4,040,000	△1,010,000
負債の部合計	9,341,390	10,851,598	△1,510,208
純資産の部			
基本金	11,806,420	11,054,720	751,700
国庫補助金等特別積立金	84,366,504	86,971,124	△2,604,620
次期繰越活動増減差額	60,021,407	54,845,744	5,175,663
次期繰越活動増減差額	60,021,407	54,845,744	5,175,663
(うち当期活動増減差額)	5,175,663	419,710	4,755,953
純資産の部合計	156,194,331	152,871,588	3,322,743
負債及び純資産の部合計	165,535,721	163,723,186	1,812,535

1. 継続事業の前提に関する注記

該当事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

・該当事項はありません。

(2) 固定資産の減価償却の方法

・建物並びに器具及び備品一定額法

・リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

該当事項はありません。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

該当事項はありません。

(3) 引当金の計上基準

・退職給付引当金・・・該当事項はありません。

・賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しております。

3. 重要な会計方針の変更

該当事項はありません。

4. 法人で採用する退職給付制度

当法人は、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度を採用しております。

5. 法人が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当法人の作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

(1) 法人全体の財務諸表（第一号の第一様式(第十七条第四項関係)、第二号の第一様式(第二十三条第四項関係)、第三号の第一様式(第二十七条第四項関係)）

(2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(㊸)）

(3) 拠点区分におけるサービス区分の内容

しらとり会

「本部」（社会福祉事業）

「就労継続支援B型事業」（社会福祉事業）

「生活訓練事業」（社会福祉事業）

「地域活動支援センターI型事業」（社会福祉事業）

「指定相談支援事業」（社会福祉事業）

「委託相談支援事業」（社会福祉事業）

「住宅入居等支援事業」（社会福祉事業）

6. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	0	0	0	0
建物	103,770,980	0	2,502,179	101,268,801
定期預金	1,000,000	0	0	1,000,000
合計	104,770,980	0	2,502,179	102,268,801

7. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当事項はありません。

8. 担保に供している資産

担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地（基本財産）	0円
建物（基本財産）	101,268,801円
<hr/>	
計	101,268,801円

担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	4,040,000円
<hr/>	
計	4,040,000円

9. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

（貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。）

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産 建物	139,010,000	37,741,199	101,268,801
有形固定資産 車両運搬具	5,905,070	4,370,953	1,565,142
有形固定資産 器具・備品	6,080,060	5,972,146	107,914
無形固定資産 ソフトウェア	609,000	480,200	128,800
合計	151,604,130	48,564,498	103,070,657

10. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

（貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。）

該当事項はありません。

11. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当事項はありません。

12. 関連当事者との取引の内容

取引条件及び取引条件の決定方針等

該当事項はありません。

13. 重要な偶発債務

該当事項はありません。

14. 重要な後発事象

該当事項はありません。

15. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当事項はありません。

基本財産及びその他の固定資産(有形・無形固定資産)の明細書

(自) 平成28年04月01日 (至) 平成29年03月31日

社会福祉法人名 社会福祉法人しらとり会
拠点区分 しらとり会

資産の種類及び名称	期首帳簿価額(A)		当期増加額(B)		当期減価償却額(C)		当期減少額(D)		期末帳簿価額(E=A+B-C-D)		減価償却累計額(F)		期末取得原価(G=E+F)		摘要
	うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		うち国庫補助金等の額		
基本財産(有形固定資産)															
土地															
建物	103,770,980	85,991,684	2,502,179	2,394,200					101,268,801	83,597,484	37,741,199	36,112,516	139,010,000	119,710,000	
器具・備品															
基本財産合計	103,770,980	85,991,684	2,502,179	2,394,200					101,268,801	83,597,484	37,741,199	36,112,516	139,010,000	119,710,000	
その他の固定資産(有形固定資産)															
土地															
建物															
車両運搬具	1,228,191	979,440	402,508	210,420			1		1,565,142	769,020	4,370,953	490,980	5,936,095	1,260,000	
器具・備品	225,627		117,713						107,914		5,972,146	2,659,687	6,080,060	2,659,687	
その他の固定資産(有形固定資産)計	1,453,818	979,440	520,221	210,420			1		1,673,056	769,020	10,343,099	3,149,667	12,016,155	3,918,687	
その他の固定資産(無形固定資産)															
ソフトウェア	196,000		67,200						128,800		480,200	273,000	609,000	273,000	
ソフトウェア															
その他の固定資産(無形固定資産)計	196,000		67,200						128,800		480,200	273,000	609,000	273,000	
その他の固定資産計	1,649,818	979,440	587,421	210,420			1		1,801,856	769,020	10,823,299	3,422,667	12,825,155	4,191,687	
基本財産及びその他の固定資産計	105,420,798	86,971,124	3,089,600	2,604,620			1		103,070,657	84,366,504	48,564,498	39,535,183	151,635,155	123,901,687	
将来入金予定の償還補助金の額															
差引		86,971,124		2,604,620						84,366,504					

(注) 1. 「うち国庫補助金等の額」については、設備資金元償還補助金がある場合には、償還補助総額を記載した上で、国庫補助金取崩計算を行うものとする。
 ただし、「将来入金予定の償還補助金の額」欄では、「期首帳簿価額」の「うち国庫補助金等の額」はマイナス表示し、実際に補助金を受けた場合に「当期増加額」の「うち国庫補助金等の額」をプラス表示することにより、「差引」欄の「期末帳簿価額」の「うち国庫補助金等の額」が貸借対照表上の国庫補助金等特別積立金残高と一致することが確認できる。
 2. 「当期増加額」には減価償却控除前の増加額、「当期減少額」には当期減価償却額を控除した減少額を記載する。

しらとり会拠点区分 事業活動明細書

(自)平成28年4月1日 (至)平成29年3月31日

社会福祉法人しらとり会

勘定科目		サービ				
		本部	就労継続支援B型事業	生活訓練事業	地域活動支援センターI型事業	
収益		就労支援事業収益	0	2,814,154	0	0
		受注事業収益	0	2,041,356	0	0
		サービス事業収入	0	772,798	0	0
		障害福祉サービス等事業収益	0	31,699,720	4,191,021	15,600,000
		自立支援給付費収益	0	31,602,320	4,080,609	0
		訓練等給付費収益	0	31,602,320	4,080,609	0
		地域相談支援給付費収益	0	0	0	0
		計画相談支援給付費収益	0	0	0	0
		利用者負担金収益	0	97,400	110,412	0
		その他の事業収益	0	0	0	15,600,000
		受託事業収益	0	0	0	15,600,000
		経常経費寄附金収益	1,093,360	0	0	0
		経常経費寄附金収入	1,093,360	0	0	0
		サービス活動収益計(1)	1,093,360	34,513,874	4,191,021	15,600,000
	サービス活動増減の部	費用	人件費	0	18,367,255	4,143,653
職員給料			0	11,210,602	2,556,408	14,512,971
職員賞与			0	2,422,789	564,761	3,133,343
賞与引当金繰入			0	967,083	255,234	1,566,672
非常勤職員給与			0	1,261,198	222,564	0
退職給付費用			0	174,330	49,170	214,560
法定福利費			0	2,331,253	495,516	2,985,889
事業費			0	741,717	147,569	199,323
教養娯楽費			0	28,123	5,323	26,263
水道光熱費			0	388,973	55,613	111,535
燃料費			0	6,255	1,251	2,484
車両費			0	318,366	85,382	59,041
事務費			122,958	3,111,640	487,242	1,293,903
福利厚生費			0	30,322	7,988	43,005
旅費交通費			0	0	405	0
研修研究費		0	103,864	10,896	79,526	
事務消耗品費		11,146	90,335	17,375	72,082	
水道光熱費		0	388,960	55,606	111,522	
燃料費		0	111,793	85,677	23,591	
修繕費		0	0	0	4,860	
通信運搬費		984	172,311	34,656	214,370	
会議費		1,944	0	0	0	
業務委託費		1,188	607,637	90,457	181,462	
保険料		0	286,004	0	127,245	
賃借料		0	493,648	68,953	144,135	
土地・建物賃借料		0	58,200	11,640	46,560	
租税公課		1,000	29,300	0	0	
保守料		0	564,078	79,527	163,606	
渉外費		10,000	0	0	0	
謝金費		55,550	0	0	0	
費用弁償費		6,000	0	0	0	
諸会費		24,000	175,188	24,062	78,500	
雑費		11,146	0	0	3,439	
就労支援事業費用		0	3,914,663	0	0	
就労支援事業販売原価		0	3,914,663	0	0	
当期就労支援事業製造原価	0	3,914,663	0	0		
減価償却費	0	2,053,422	0	1,036,178		
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	△1,751,768	0	△852,852		
徴収不能額	0	0	2,227	0		
		サービス活動費用計(2)	122,958	26,436,929	4,780,691	24,089,987
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	970,402	8,076,945	△589,670	△8,489,987
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	0	13,860	0	8,140
		借入金利息補助金収入	0	13,860	0	8,140
		受取利息配当金収益	0	1	23	48
		受取利息配当金収入	0	1	23	48
	その他のサービス活動外収益	41,826	0	0	141,000	
	雑収益	41,826	0	0	141,000	
	サービス活動外収益計(4)	41,826	13,861	23	149,188	
費用	支払利息	0	50,904	0	29,896	
	支払利息支出	0	50,904	0	29,896	
	サービス活動外費用計(5)	0	50,904	0	29,896	
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	41,826	△37,043	23	119,292
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	1,012,228	8,039,902	△589,647	△8,370,695

(単位：円)

ス区分	指定相談支援事業	委託相談支援事業	住宅入居等支援事業	自殺対策電話相談事業	合計	内部取引消去	拠点区分合計
	0	0	0	0	2,814,154	0	2,814,154
	0	0	0	0	2,041,356	0	2,041,356
	0	0	0	0	772,798	0	772,798
	6,249,110	4,414,965	0	0	62,154,816	0	62,154,816
	6,249,110	0	0	0	41,932,039	0	41,932,039
	0	0	0	0	35,682,929	0	35,682,929
	404,210	0	0	0	404,210	0	404,210
	5,844,900	0	0	0	5,844,900	0	5,844,900
	0	0	0	0	207,812	0	207,812
	0	4,414,965	0	0	20,014,965	0	20,014,965
	0	4,414,965	0	0	20,014,965	0	20,014,965
	0	0	0	0	1,093,360	0	1,093,360
	0	0	0	0	1,093,360	0	1,093,360
	6,249,110	4,414,965	0	0	66,062,330	0	66,062,330
	872,446	4,397,866	0	0	50,194,655	0	50,194,655
	537,577	2,818,510	0	0	31,636,068	0	31,636,068
	116,648	623,872	0	0	6,861,413	0	6,861,413
	58,323	311,936	0	0	3,159,248	0	3,159,248
	39,300	0	0	0	1,523,062	0	1,523,062
	8,940	44,700	0	0	491,700	0	491,700
	111,658	598,848	0	0	6,523,164	0	6,523,164
	60,000	0	0	0	1,148,609	0	1,148,609
	0	0	0	0	59,709	0	59,709
	0	0	0	0	556,121	0	556,121
	0	0	0	0	9,990	0	9,990
	60,000	0	0	0	522,789	0	522,789
	90,166	8,038	0	0	5,113,947	0	5,113,947
	1,654	7,038	0	0	90,007	0	90,007
	0	0	0	0	405	0	405
	1,354	1,000	0	0	196,640	0	196,640
	2,500	0	0	0	193,438	0	193,438
	0	0	0	0	556,088	0	556,088
	60,000	0	0	0	281,061	0	281,061
	0	0	0	0	4,860	0	4,860
	19,474	0	0	0	441,795	0	441,795
	0	0	0	0	1,944	0	1,944
	0	0	0	0	880,744	0	880,744
	0	0	0	0	413,249	0	413,249
	0	0	0	0	706,736	0	706,736
	0	0	0	0	116,400	0	116,400
	0	0	0	0	30,300	0	30,300
	5,184	0	0	0	812,395	0	812,395
	0	0	0	0	10,000	0	10,000
	0	0	0	0	55,550	0	55,550
	0	0	0	0	6,000	0	6,000
	0	0	0	0	301,750	0	301,750
	0	0	0	0	14,585	0	14,585
	0	0	0	0	3,914,663	0	3,914,663
	0	0	0	0	3,914,663	0	3,914,663
	0	0	0	0	3,914,663	0	3,914,663
	0	0	0	0	3,089,600	0	3,089,600
	0	0	0	0	△2,604,620	0	△2,604,620
	0	0	0	0	2,227	0	2,227
	1,022,612	4,405,904	0	0	60,859,081	0	60,859,081
	5,226,498	9,061	0	0	5,203,249	0	5,203,249
	0	0	0	0	22,000	0	22,000
	0	0	0	0	22,000	0	22,000
	17	0	0	0	89	0	89
	17	0	0	0	89	0	89
	0	0	0	0	182,826	0	182,826
	0	0	0	0	182,826	0	182,826
	17	0	0	0	204,915	0	204,915
	0	0	0	0	80,800	0	80,800
	0	0	0	0	80,800	0	80,800
	0	0	0	0	80,800	0	80,800
	17	0	0	0	124,115	0	124,115
	5,226,515	9,061	0	0	5,327,364	0	5,327,364

財産目録

別紙4

平成29年3月31日 現在
(法人名) 社会福祉法人しらとり会

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部						
1 流動資産						
現金預金						
現金		—		—	—	
預金	もみじ銀行高屋支店	—	運営資金として	—	—	53,565,360
	小計					53,565,360
事業未収金		—	2月・3月分訓練等給付金等	—	—	7,199,108
未収補助金	広島県	—	借入金利息補助金	—	—	22,000
未収収益		—	3月分受注事業収入	—	—	499,255
立替金		—		—	—	
前払費用	あいおいニッセイ同和	—	火災保険	—	—	165,361
仮払金		—		—	—	
	流動資産合計					61,451,084
2 固定資産						
(1) 基本財産						
建物	東広島市高屋町楡山267番1	2002年度	第2種社会福祉事業である、ワークセンターなかよし等に使用している	139,010,000	37,741,199	101,268,801
定期預金	ゆうちょ銀行	2002年度	定款により基本財産としている	—	—	1,000,000
	基本財産合計					102,268,801
(2) その他の固定資産						
車輛運搬具	ホンダ ステップワゴン	—	利用者送迎等	1,580,000	615,673	964,327
	マツダ ボンゴ	—	作業の製品運搬等	1,684,000	1,683,999	1
	スバル サンバー	—	作業の製品運搬等	937,635	937,634	1
	スバル サンバー	—	作業の製品運搬等	995,000	994,999	1
	スバル プレオ	—	相談業務の訪問支援等	739,460	138,648	600,812
器具及び備品	パソコン等	—	事業所の運営業務	6,080,060	5,972,146	107,914
権利	ホンダ ステップワゴン	—	リサイクル料	—	—	13,980
ソフトウェア	会計ソフト	—	事業所の運営業務	609,000	480,200	128,800
	その他の固定資産合計					1,815,836
	固定資産合計					104,084,637
	資産の部合計					165,535,721
II 負債の部						
1 流動負債						
1年以内返済予定設備資金借入金	独立行政法人福祉医療機構	—		—	—	1,010,000
未払費用	3月分水道光熱費他	—		—	—	1,959,292
預り金	理事会・評議員会弁償費 所得税	—		—	—	2,220
職員預り金	3月分源泉所得税他	—		—	—	180,630
仮受金		—		—	—	
賞与引当金	平成29年度夏期賞与分	—		—	—	3,159,248
	流動負債合計					6,311,390
2 固定負債						
設備資金借入金	独立行政法人福祉医療機構	—		—	—	3,030,000
	固定負債合計					3,030,000
	負債の部合計					9,341,390
	差引純資産					156,194,331

(記載上の留意事項)

- ・土地、建物が複数ある場合には、科目を拠点区分毎に分けて記載するものとする。
- ・同一の科目について控除対象財産に該当し得るものと、該当し得ないものが含まれる場合には、分けて記載するものとする。
- ・科目を分けて記載した場合は、小計欄を設けて、「貸借対照表価額」欄と一致させる。
- ・「使用目的等」欄には、社会福祉法第55条の2の規定に基づく社会福祉充実残額の算定に必要な控除対象財産の判定を行うため、各資産の使用目的を簡潔に記載する。
- なお、負債については、「使用目的等」欄の記載を要しない。
- ・「貸借対照表価額」欄は、「取得価額」欄と「減価償却累計額」欄の差額と同額になることに留意する。
- ・建物についてのみ「取得年度」欄に記載する。
- ・減価償却資産（有形固定資産に限る）については、「減価償却累計額」欄に記載する。なお、減価償却累計額には、減損損失累計額を含むものとする。
- また、ソフトウェアについては、取得価額から貸借対照表価額を控除して得た額を「減価償却累計額」欄に記載する。
- ・車輛運搬具の○には会社名と車種を記載すること。車輛番号は任意記載とする。
- ・預金に関する口座番号は任意記載とする。

残高証明書 ACCOUNT BALANCE CERTIFICATE

全口座 (口座別)

同文のもの 1 通発行の内第 1 号

1 ページ

平成 29 年 04 月 24 日

739-2105
 広島県 東広島市
 高屋町松山 267-1

社会福祉法人しらとり会 様

493(493)-290424-1107-022-000-0356896

平成 29 年 03 月 31 日現在の貴方ご名義

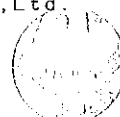
下記勘定残高について相違ないことを証明
 いたします。

THIS IS TO CERTIFY THAT THE BALANCE OF YOUR ACCOUNT(S)
 WITH Momiji Bank, Ltd. SHOW(S) THE AMOUNT(S)
 INDICATED BELOW.

もみじ銀行

MOMIJI Bank, Ltd.

お取引店 高屋 支店
 電 話 082(434)3001



勘定 ACCOUNT	口座番号 ACCOUNT NO.	残高 BALANCE	(内決済未確認証券類) BILLS OR CHECKS FOR COLLECTION	備考 REMARKS
普通預金	0364791			
普通預金	0364805	¥10946508		¥0
普通預金	0365429	¥88546		¥0
普通預金	0367952	¥18294201		¥0
普通預金	0397738	¥145000		¥0
普通預金	0404831	¥23084589		¥0
普通預金	0404858	¥19779		¥0
普通預金	0416910	¥225783		¥0
普通預金	0426479			
普通預金	0431006	¥70562		¥0
普通預金	0454936	¥0		¥0
普通預金	0472853	¥690292		¥0
以下余白				

・この証明書の金額は訂正いたしません。
 ・金額は、証明日現在の元締め最終残高を表わし決済未確認の証券類を含んでいることがあります。この場合はその金額を「(内決済未確認証券類)」に表示します。
 ・「当座貸付(総合口座)」には、普通預金貸付越額のカードローンご利用額も含まれます。
 ・口座番号等は、口座指定のご依頼の場合のみ表示します。

2/2 YC01804 (28 1026)

(P7 3TF)

残高証明書

〒739-2105

広島県 東広島市 高屋町松山 267-1

2017年 5月 2日

社会福祉法人 しらとり会
理事 正田 信夫 様

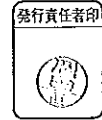
株式会社 広島銀行

(4076459)

高屋支店



貴名義の 2017年 3月 31日現在の下記預金
について、次のとおり証明いたします。



17° = 3"

取引の種類	金額	摘要
普通預金	¥0	
合計金額	¥0	
	以下余白	

この証明書の金額は訂正いたしません。
取引の種類が「商業手形」の場合、でんさい割引の残高を含みます。

以上

(07600443199711103TY3)

15.7 2×50 800(S) (003-003)a